



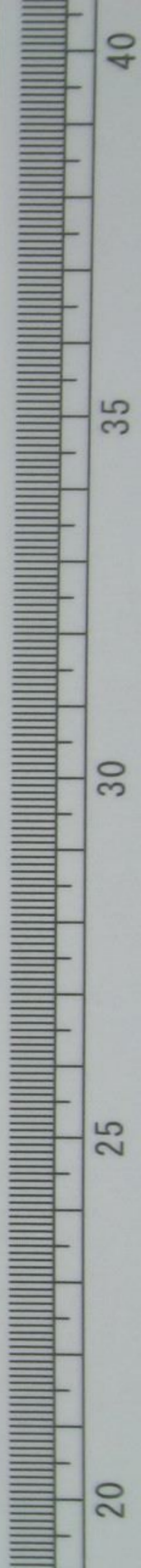
澗川西岬一覽

舟船之部

上

逍遙文庫  
文庫6  
1881  
1

~~E~~  
70  
1



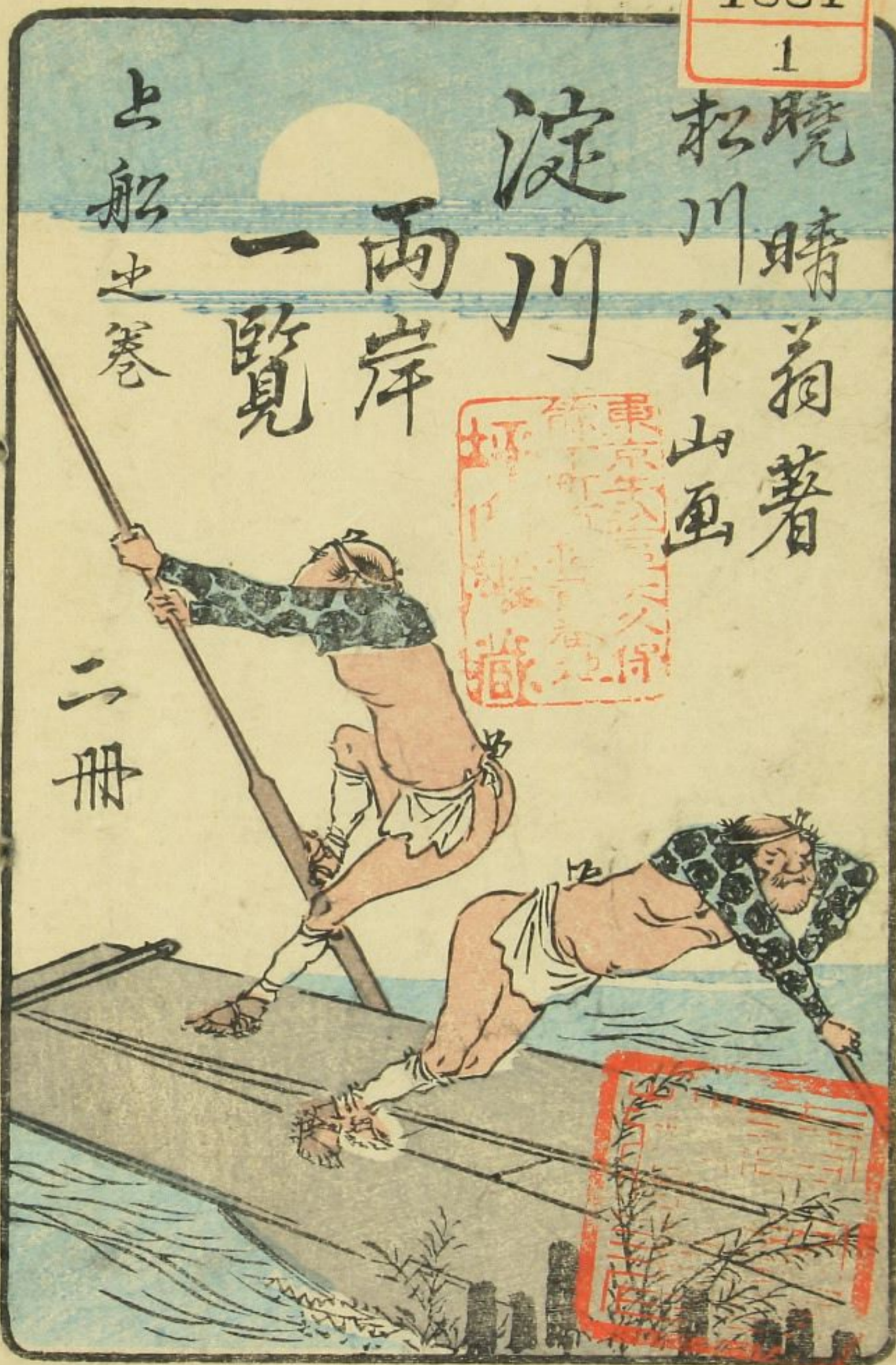
文庫6  
1881  
1

曉晴翁著  
松川 半山画

# 淀川

兩岸  
一覽

上船之卷



二冊

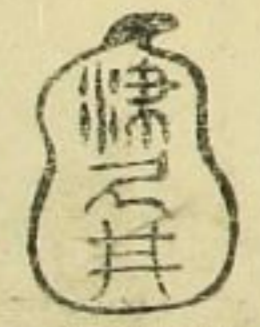
地  
6  
1-4

宋每游浪花必買船下激水  
 味攬江山之勝未暇探沿江諸  
 區也頃日鷄鳴舍主人被示此  
 著偶又遊浪華携乃而行  
 舟中披圖之間百里長堤

邗落祠觀名區舊墟自邗  
而送之。詳悉惜去流之  
將畫也。留家後。謝而還之。自  
令及下。激水人。必携一本。蓋  
主人之賜。為多也。因慈通刻。

之若。夫賈人估客。必便夜航。  
迢江。水數。為。夢。於。嗟。未。賣。  
食聲。困勿論也。  
安政丙辰三月。飄。之。人。題。

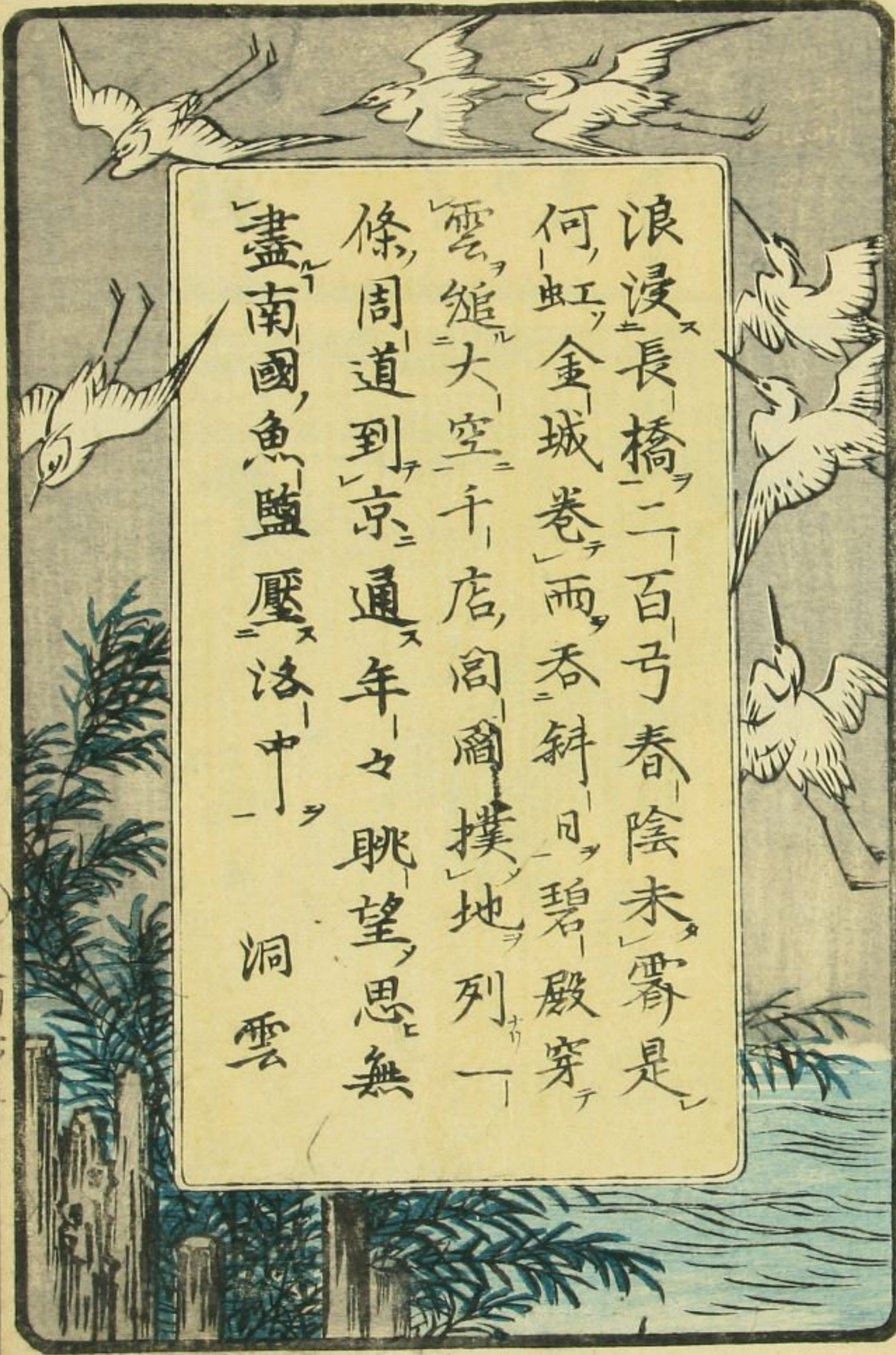
應需字陽書



凡例

一 此書の浪花より京師へ船ゆく登る淀川條の兩岸の地名と  
初めを傍るる寺社及び名所古跡と著し且其風系絶情  
るる所の名と出しく船客の辱とる者之

一 兩岸と一圖よりうつらん夏竊さよゆらぐとつども其委ふ  
つゞゞ又たよ新観ありき都の緒しき地あり  
右よ美景ありき左よ川添の堤のそなるも有て其昏  
風流るるがぶたはれも船中より見らるるや  
昔々其順は一覽せしむれば若の二卷の上船のあと  
うつゝ後の二卷の下船のあとと画く故よ上船のあと  
下船の左より下船の巻の上船の左に心得べし又准之  
船客これと図しむハ船長は向はて兩岸と委く知べし



浪漫長橋二百弓春陰未霽是  
何虹金城卷兩吞斜日碧殿穿  
雲館大空千店同商撲地列一  
條周道到京通年々眺望思無  
盡南國魚鹽壓洛中

洞雲

大坂

八軒家

つらゆ

大いの

名や

くまの月

芙蓉



八軒屋畔

客乗船三

大槁頭薄

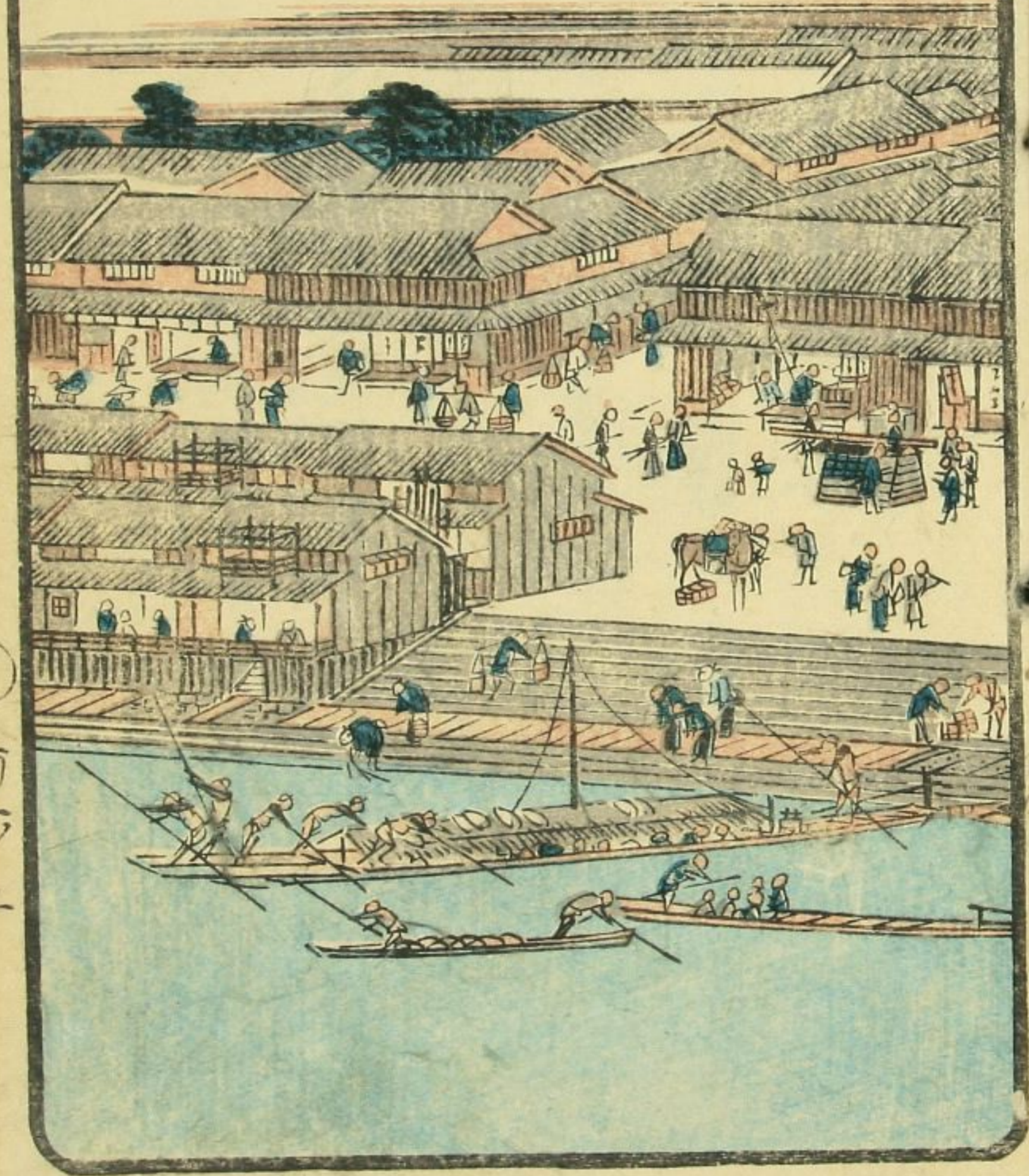
暮天多少

行人蓬底

夢一齊輾

破水輪邊

彼崎槩



東京生  
餘  
坪

大坂

難波津より浦海沿の里一海沿人難波男難波女未の古俗多し  
又難波國は華ホハ神武帝の御宇より古名より  
大坂と号上右の聞えは按ざるふ大江坂の畧訓さるん  
説ゆりもつらん大江の難波江の一名して人王十七代

仁徳天皇第一の皇子と大江伊耶本和氣命と申次  
後禪の後の履中天皇と

此時大江の号初々聞内抑當津の海陸の都會天下の  
代の帝より

要衝して西列の喉口 皇初の園域より群峯右に繞り平野左に

連る激水の内は貫き江海外を抱く山川の明麗田野の壤腴海

濱の廣舟澤國の佳致して他邦に類せざ故に諸國の米穀材

石及び和漢の雜貨あつて看船して朝の市暮の市街は器

縦横四衢の賑はる事海内は冠たり

難波橋

浪花三大橋の一なり南詰は船場北濱あり北詰は西天満は架り  
長と百十四間六尺欄檻天守のどくく連りまごつる壯觀あり

山洲淀河の下流浪華は入天満川と号は當橋の下より中の島と

分遠し北と裏川とひ南と土佐堀とひ世俗俱は大河と呼ぶ

中の島の東の寄と山崎の端と号は此所より東方の瞻望佳景に

風流の貨食家富家の隠居初とありて無雙勝地なり夏夕の

納涼の遊系船水面は元満し橋上の往來兩岸の茶店結して事



言もろくく〜獅子堂云橋の百丈うして水あり〜流れ日ハ金城の上に出く影孤舟と沈む諺よ此所と浪花第一の美景といふもよ後〜と小似〜り云

長と夜もろく〜終バ明ぬ難波む〜 獅子堂

金相場濱 難波橋の南詰東より 浪花市中の西替屋日毎よろく小集り

金の賣買とろく〜相庭と立ろく金の價と定む浪花の一奇なり

築地 金相場の東より 此地の僅の地所といふも旅宿貸食家貸座敷るど

何ろく〜何れも清らろく小風流〜

東堀 築地の端より大河と引ろく南に流れ 天正十三年開鑿とろく〜委く東横堀

天神橋 難波よりの上より川上より 第二の大橋なり長と百二十二間三尺高欄翹と

當橋の通ハ北ハ十丁目條より長柄と通ろく京師よ登る西街道よ

至り南ハ松屋町通より下寺町よ至る道條るゆ〜都鄙の行人

往返引もきろく恰も櫛の齒といくが如〜殊更北詰よ青物の

市場何りて朝毎の群集雲霞のど〜其賑ハ言語よ絶ハ天満宮

糸治の通路よろく故よ斯ハ号ろくものる〜

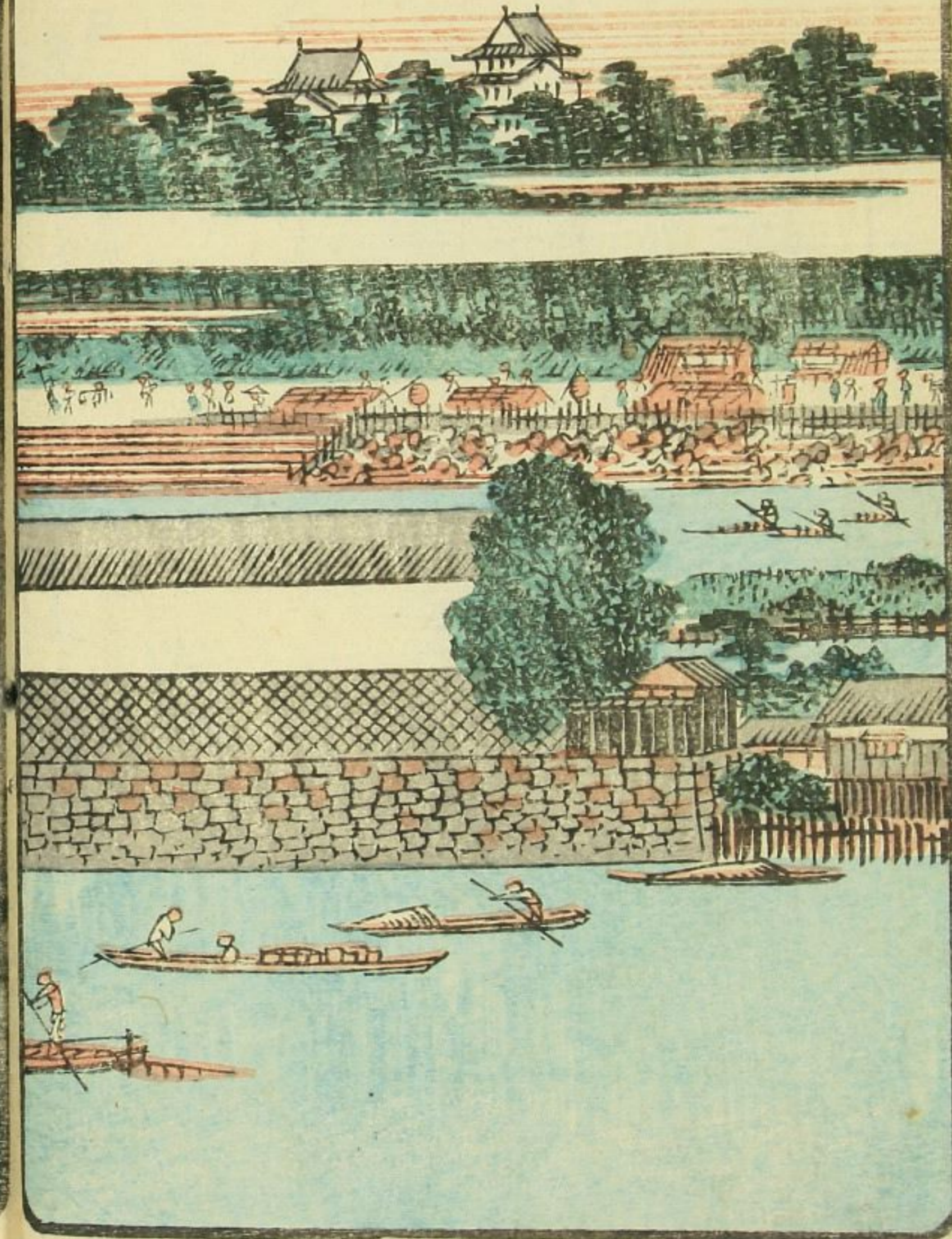
八軒家 天神橋南詰の東より 京師上下の飛着ろく〜松宿のよと連の

京師への通船の浪花市中洲を舟とらざるも當舳岸と第一に所謂  
 三十石の昼船夜船今井船の東雲の頃と解く伏見と着岸の  
 早きと譽とらざる程は夜舟の下を速とらぬ秋の内は着今井船の  
 一番の未明は發し夫より二番昼舟夜船の上を終船の凡々の別は  
 及べり又昼船の下をの遅きも細更と過ると河れば其閑静なること  
 僅に二時は過れば頗る繁花の地なり傳云此地の古歌は渡辺や大江の岸  
 と詠ぜし名所なりとぞと  
 委しい摂津名所會大成よ  
 出せばこれ畧に  
 秋の夜ふの大江の岸もまごころに  
 茶夕

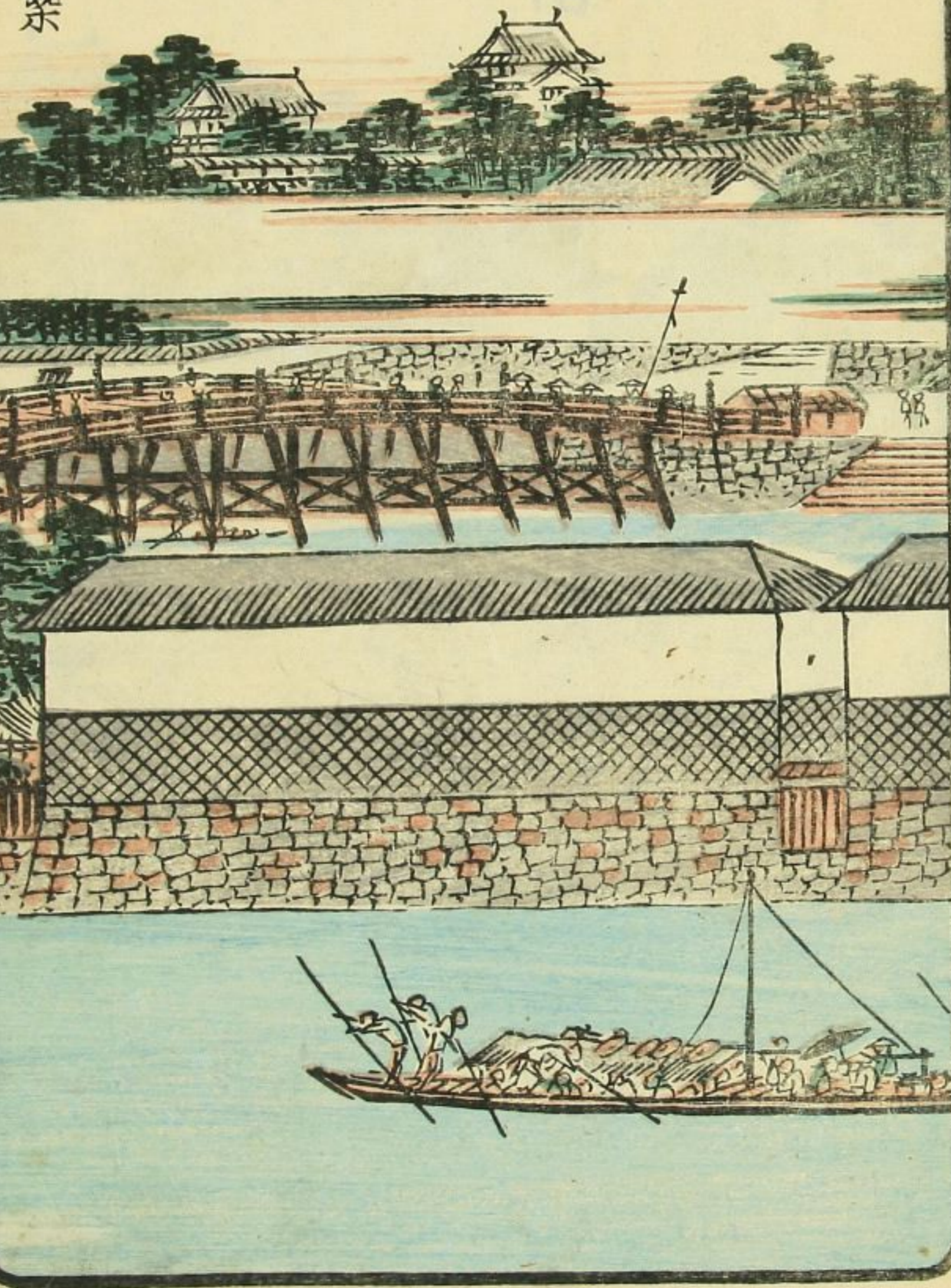
天満橋 八軒家の東あり川上第一番の大橋なり長さ百十五間五尺高欄  
 魏々として壯觀なり南詰は京橋二丁目北詰は天満二丁目と云  
 大河筋又鯉江川古大和川平野川猫間川等合流してあはれ  
 會は當橋より天神橋難波橋と以て浪花の三大橋と稱は  
 今も満つ天のそと踏むる程  
 松之下 天満橋南詰の東あり一町余の間土堤に並木の松あり  
 此の地は原京橋二丁目と号して人家建つれり享保八年  
 所習ありて道頓堀吉元湯門町の裏手へ移されり今の如く  
 明地と名なり吉元湯門町の後方と本京橋町と号はる此謂なり



松之下  
京橋  
豊前嶋



木下人  
為天下  
君威名  
遠向外  
夷聞層  
城萬仞  
凌霄漢  
逆指朝  
鮮八點  
雲

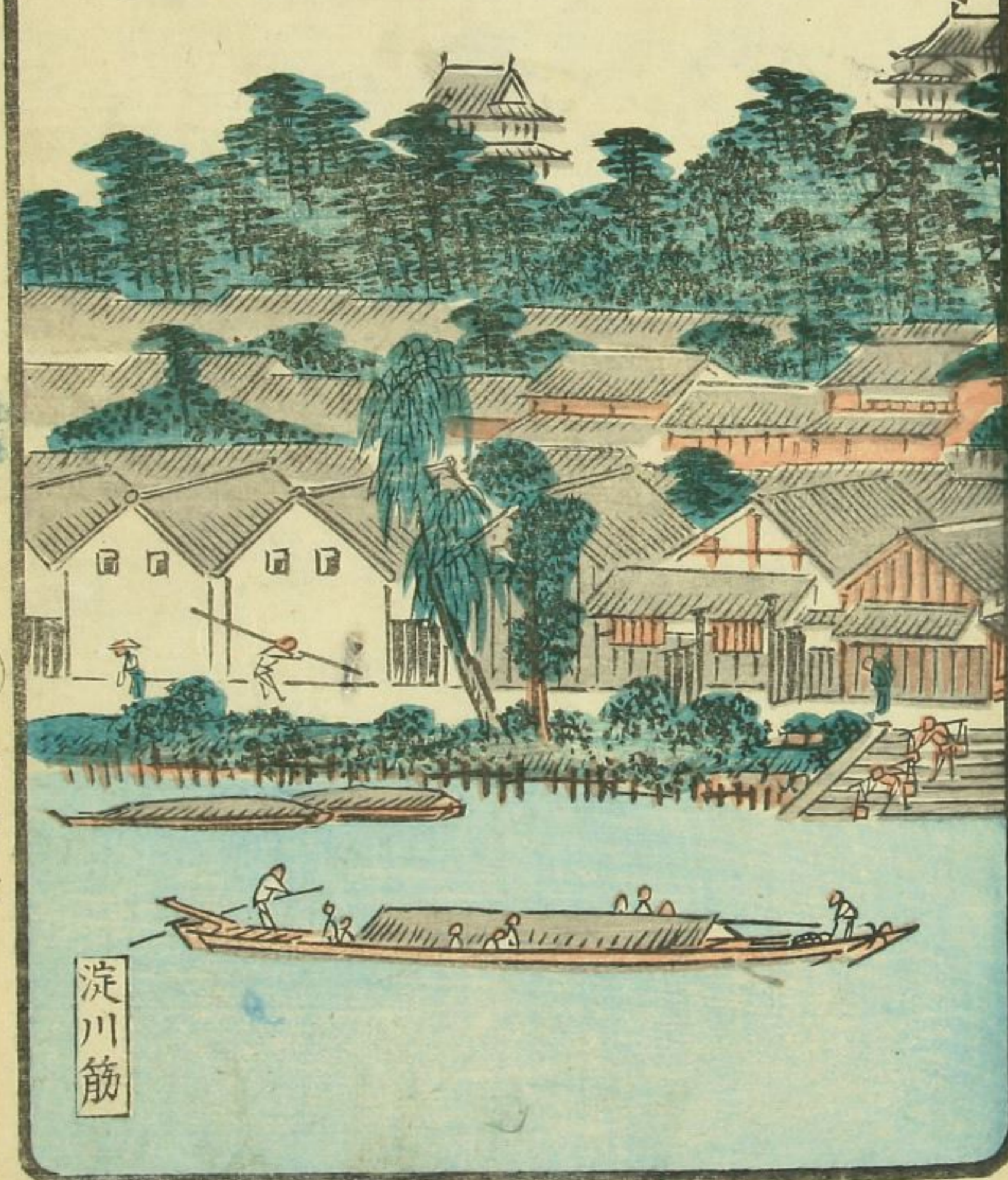


彼崎梁

三ノ入

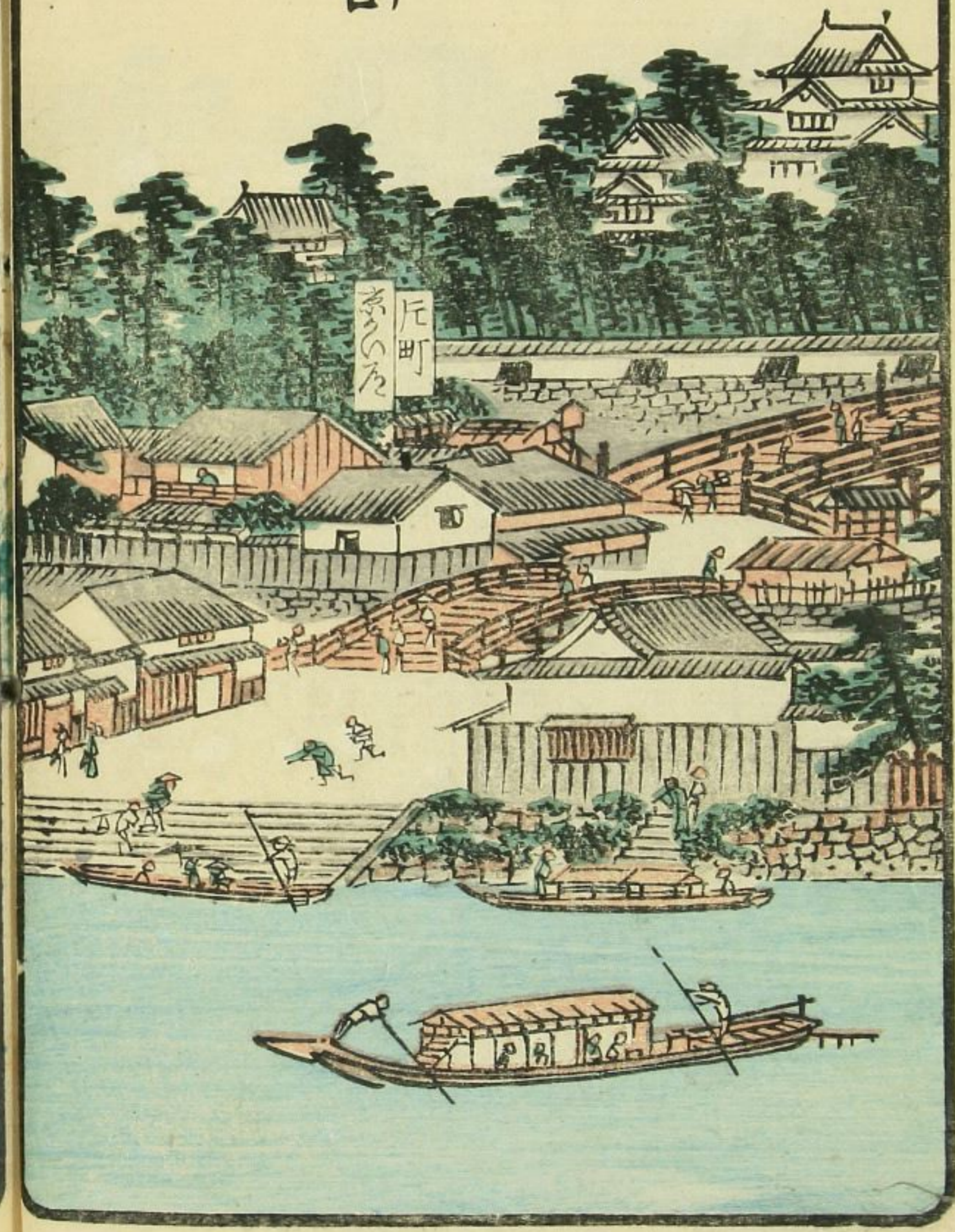
五ノ入

見ゆ 船安の申す所の  
 諸事なほ三つ修  
 りつゝの御方  
 あんづり  
 今も中途より上陸  
 するに  
 八ヶ岳  
 御船  
 期ふのぞ  
 告ると  
 ありぬ  
 ねるべ  
 ござ



淀川筋

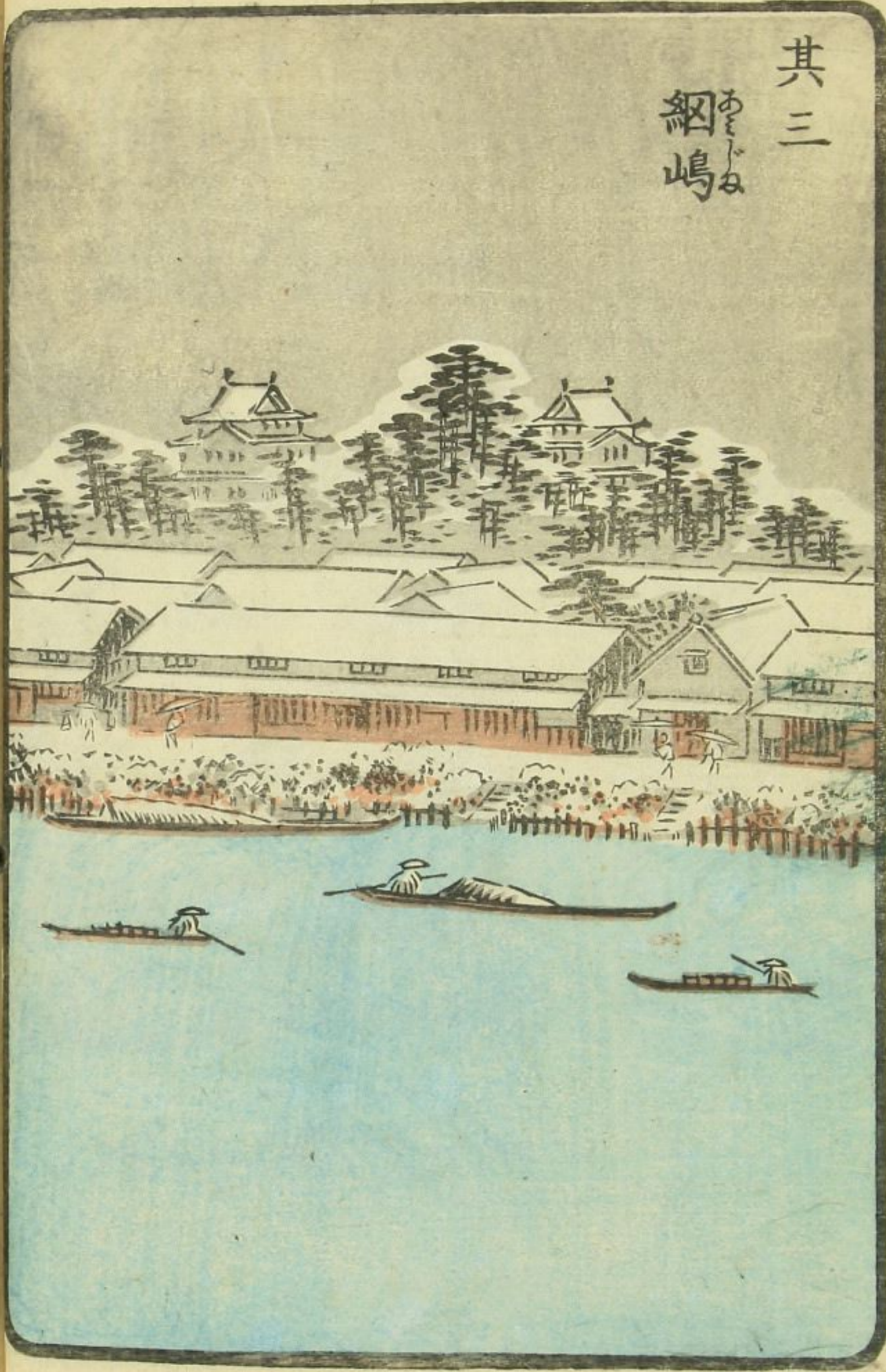
其二  
 凡町  
 京街道  
 川崎  
 渡口



凡町

其三

網嶋 あじま



山  
一  
七

風急捲寒  
濤空水黠  
難別西北  
雲纒開連  
山悉作雪  
釋慈周

抗のちまゝと  
積りまゝ  
沙鷗



山  
一  
七

其四

城北網洲  
漁父鄉酒  
樓宛在水  
中央魚膾  
蟹螯知不  
乏妓舟維  
得柳絲長

荒井公廩



芦上舟

三三三

三三三

珍珍珍

套以



三三三

三三三

京橋

松の下の東より北詰と相生西之町と云 故大和川猫間川會流

橋下と歴々大河よ入欄檻葱宝珠の銘云元和九年造立云

南方より金城巍々赫々として松風萬歳と唱ふ北詰より朝毎ふ

川魚の市ありて魚更販りて此市場より清泉ありて常に涌出

四面ふ溢る衆人敷愛説は此より東に至り野田橋と越野田町成

歴々野江村よ出る則京師往還の本街道あり

備前島橋

京橋の北より鯉江川に跨る南詰の片町北詰の備前島町と云

川崎渡口

右同所より此河岸より天満の川等よりなるありて渡凡八十四間余云

網嶋

備前島の東にあり此地は淀川の側ありて前より淀川の流れ潔く

浪花の通船釣船細舟遊糸の樓船終日往來し東より河内大和の

山々見たりとて瞻望よしとみ絶景ありとて程は富家の別宅雅人

の閑居風流の貨食家等ありて頗る遊樂の雅地なり原末此辺の

溪家多く常に軒端は細と干流よりして細島と号けりなるべし

大長寺

右同所より浄土宗 本尊阿弥陀佛の惠心僧都の作る境内に鯉墳

滝登鯉山とあり并に鯉鱗の奇なるもの有寺の什物に 畧之 是より

北へ堤つゝ凡三町をりてやして櫻宮に至る左右桜多く

備前島橋

櫻宮

細島の北あり 所祭天照皇太神

宮づくりの光景伊勢と換せり

当社ハ淀河の東岸あり境内ハ言も更なり水辺より馬場の

堤に至るまで一帯の桜にて晩春の花の盛る雲と見雪と疑ふ

風景あり又西の河岸ハ川岸より北にづつて長柄の里の邊

まが此も別木されハ川と狭く兩岸の花爛熳とて水ふ

映ト川風花香を送りて四方に芳しとて程に都下の老若

陸と歩み船あり通ひ訊ふあり舞あり紅日西に没ると知れ

實は浪花は旅に遊宴の最上花見の勝地なりと云

接之渡

右社頭の上の方あり 此渡船ハ弥生の花の川にありて

有て名は接之渡

故は梅の

源八渡口 舟に乗りて中野の邊に云渡の長さ九十間と云

源八と云りて梅のゆきと云

中野

右に一村あり別梅の宮あり

當村の農家は酒肴と販ぐ

あり其塩梅部は似て遊宴を賞給就中泥鰌汁と

以て名地とせり花見の川と始りて卯月中旬と限と云

澤上江

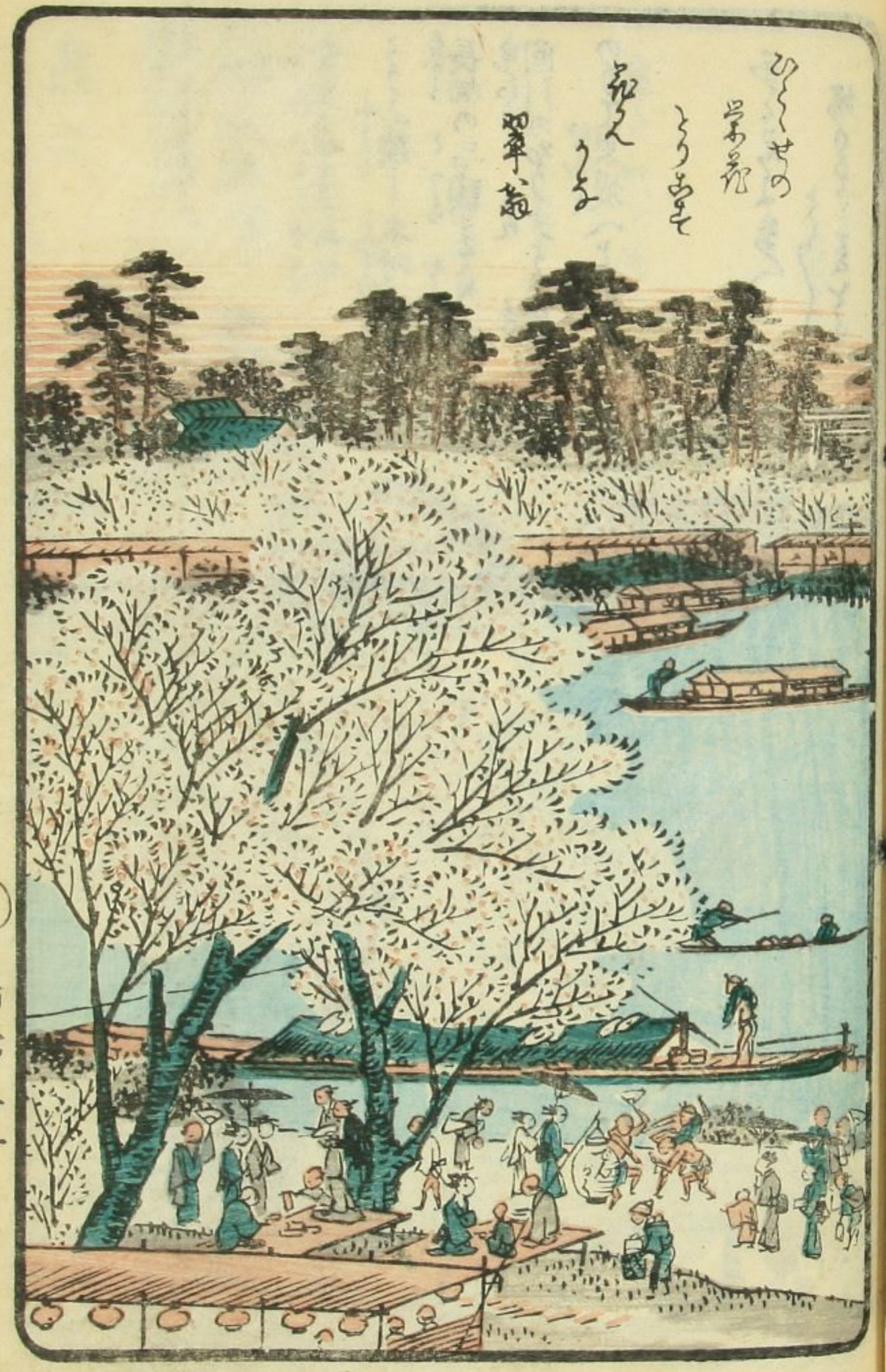
中野村の上よりある村の五六町東に鶴境と云あり其事詳し

川崎  
櫻宮

ちうなな  
流れも  
やら〜細流り  
か〜橋の  
まは〜る  
正裕



ひ〜せの  
あ〜る  
〜あそ  
〜え  
翠苑



其二

横宮の西岸ハ

天満の川岸ヨリ

登舟の水主ホおぬ

より上陸一木村堤と

長柄の三頭まで凡一里の

間引の舟り夫より船小

のりて東堤へよる

あまのこゝろよまへ

真柳

堤のさへまよも

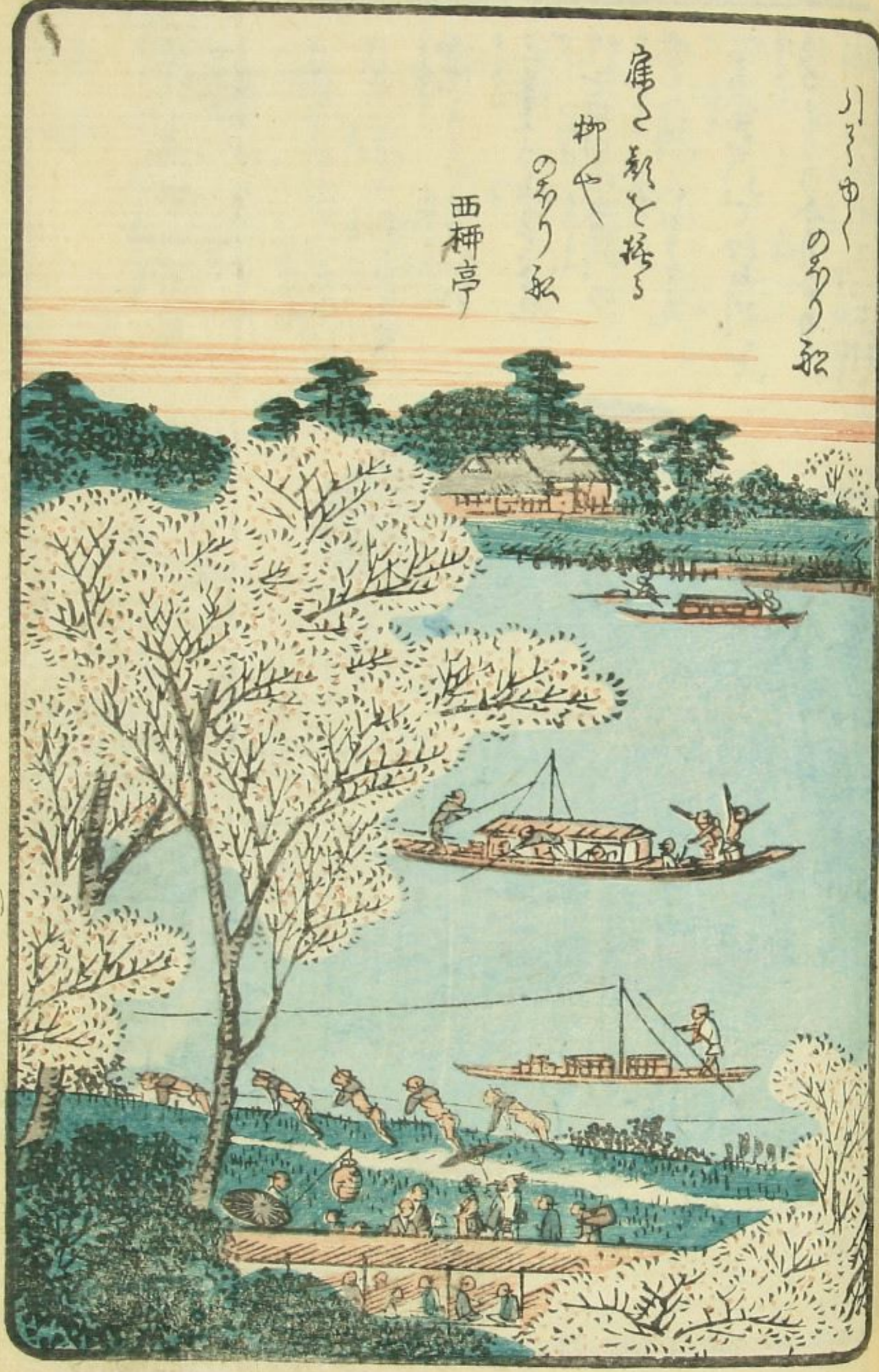


川さゆのあり船

岸を新と接す

柳やのあり船

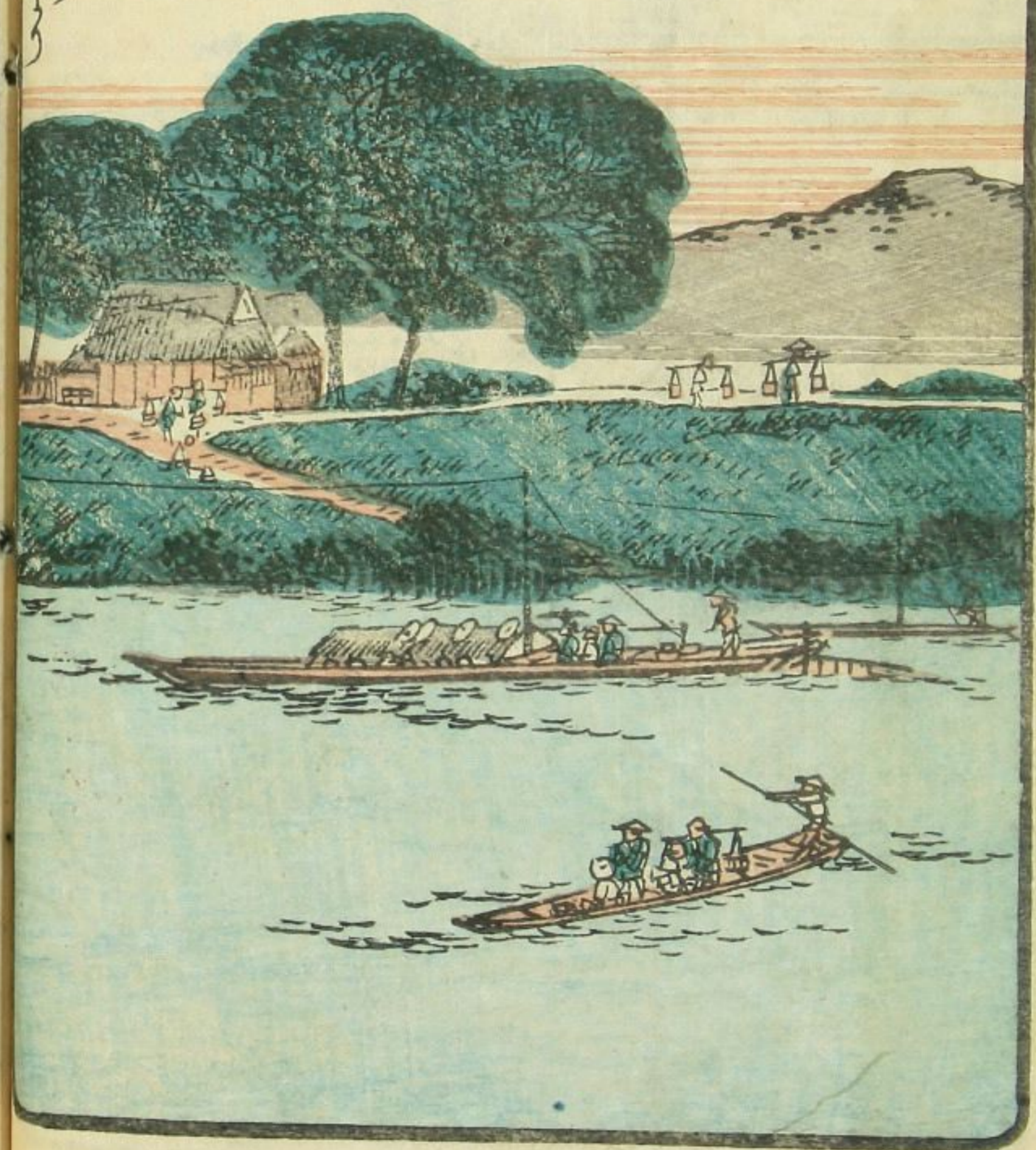
西柳亭





毛馬

第二度目は西より  
上船の水子ホより  
赤川まで江戸の舟引  
の舟り夫より舟のりて  
西境よりヤセ野の  
二番よりよりて遠  
境と平田の番田の  
家を通りわたりて凡  
一里余を引て江戸川と  
海に落ちふみふのり  
掛り又舟を引る舟引



より舟引境よりより  
舟引と打ここ舟引まで  
凡二里に舟引て是より  
舟のり十町よりより  
よりて東境よりより

舟引の舟引  
舟引の舟引  
舟引の舟引  
舟引の舟引  
舟引の舟引



舟引の舟引

舟引の舟引

母恩寺

澤上江村にあり法皇山と号し本尊阿弥陀佛立像長三尺許惠心

浄土宗にして女僧住職也 僧都の作と聞ゆ當寺の尼僧常綿帽子と製とると主業とす

其色清白にして美と好み以て名物とて世に名高し

善源寺

澤上江村の上よりついで寺度ありしが今の村名とす

友淵

善源寺村の上よりついで舟測とも書す

毛馬渡

友淵村の上より東生郡毛馬村より西成郡北長柄村への舟渡とす

毛馬

右渡場の上より備前島より此所は者賣船あり酒餅といふ

此所より水上九三十町余 齋ごとく其風俗牧方不同

赤川

毛馬村の北にあり此地より上と出せし赤川とて名す

葱生

赤川村のトミナリ 葱生村の上より

中村の上より

江野

中村の上より

南島

江野村の上より

森小路

南島村の上より

陸路街道大坂野田町より野江関目茶屋を経て南嶋と森小路の間小

出る是より表小路今市土居守口と経て南十番八番七番五番

二番一番

佐太といふ是より仁和寺。野太間。木屋。松鼻。出口。伊加賀。

投方。禁野。磯嶋渚。下嶋上嶋。樋之上。楠葉。橋本。樋之上

美豆。淀

大橋。間小橋。小橋とて下三栖より伏見肥後橋に至る本街道と

赤川

野山

美し

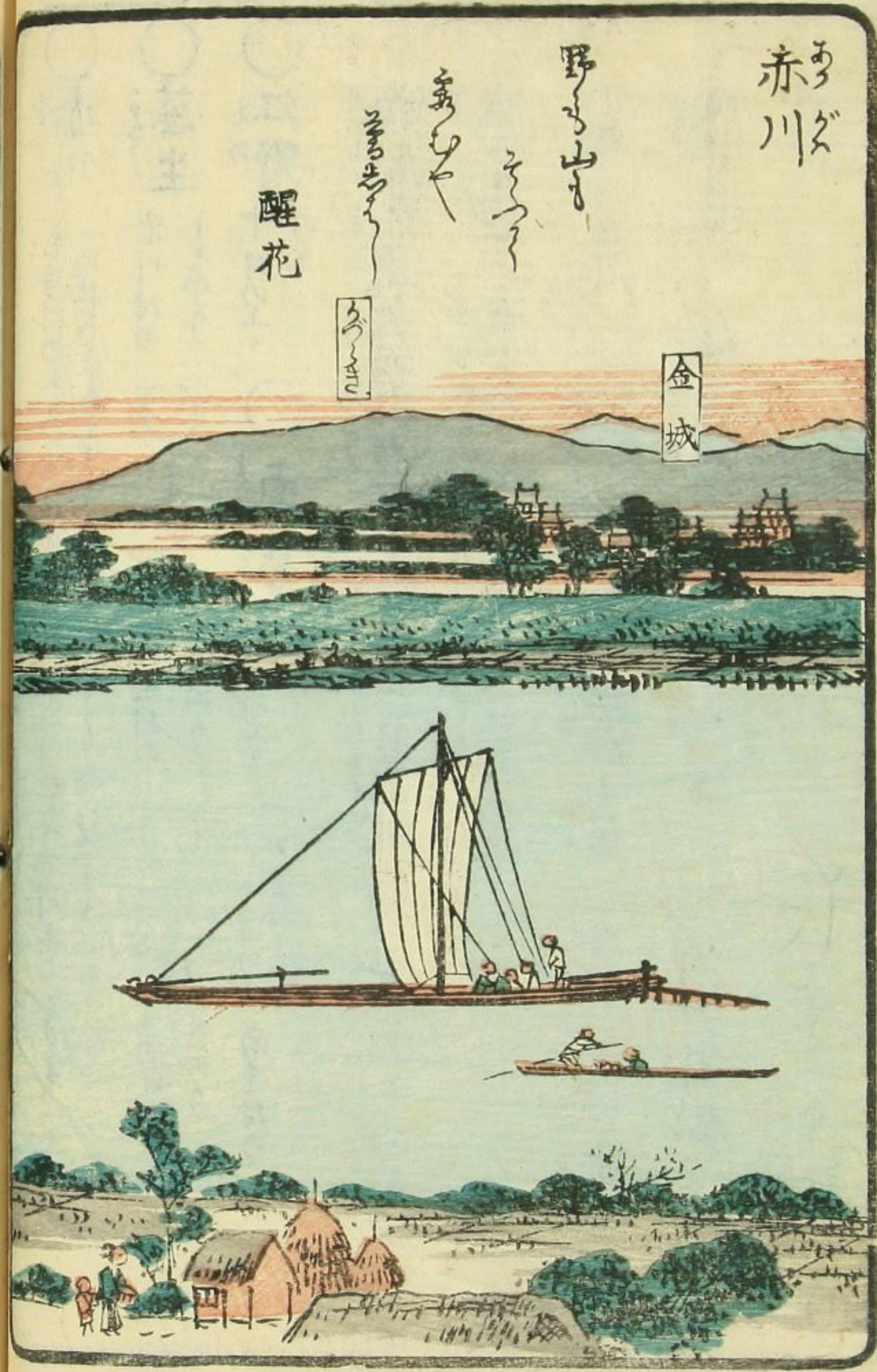
そら

ふらふら

醒花

ふらふら

金城



赤川の

十二里

河川

つたもたつ

のり合の

表風

二上



三上

上

守口驛  
新川

船をあれと

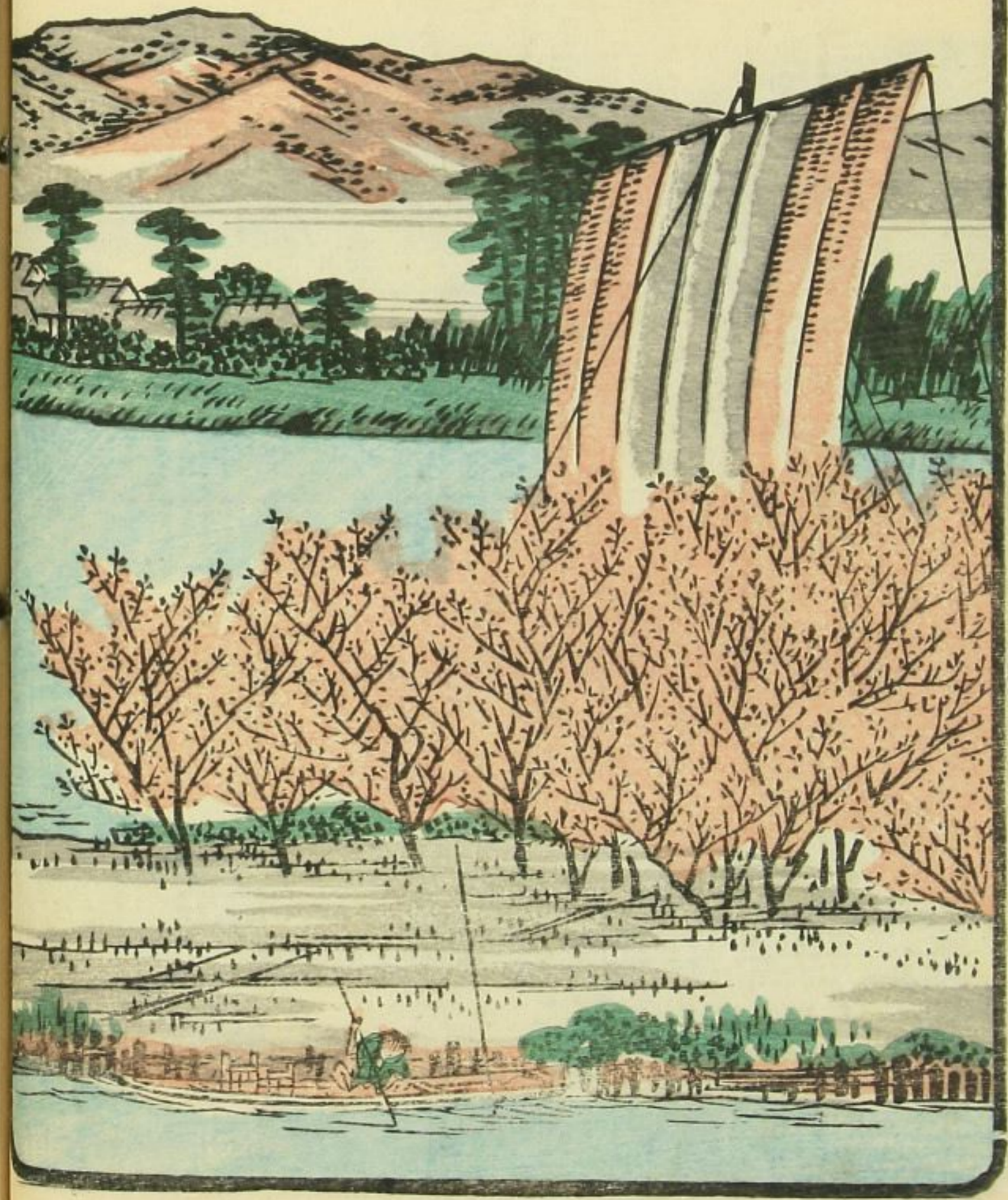
よとの堤ふ

うく山にきり

奥うれ

えまのけし

對  
勝任



奥登るゆ

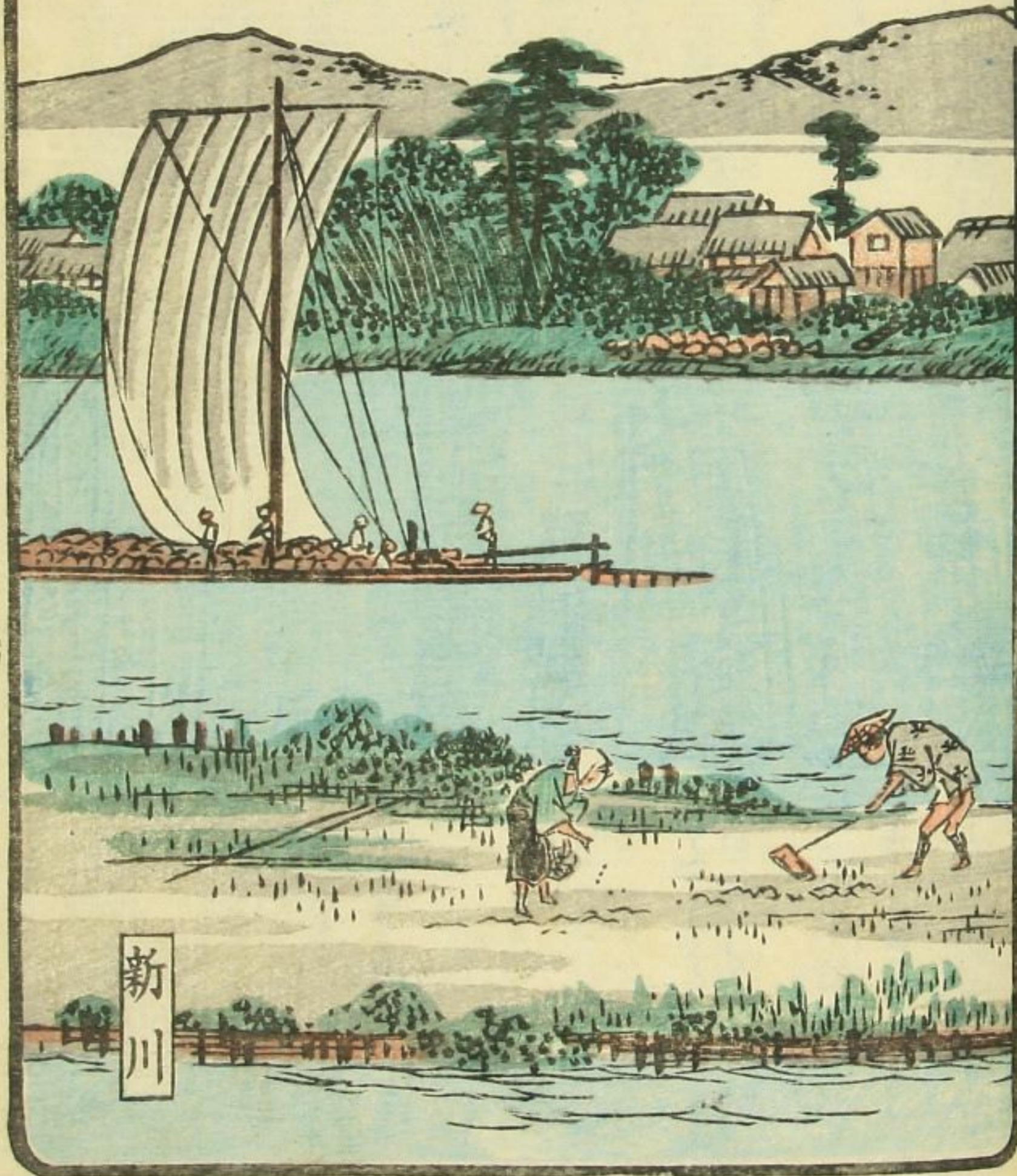
秋の夜よの

谷とあし

さき

うにわ

百入



新川

京入或ハ竹田街道と上り又或ハ富表横大路下上の鳥羽と經

て東寺四塚より出てもりうかのく其方角の便宜あるごとく

今市渡口 今市村の上り東生郡今市村 ○今市 渡場の一村あり毛馬より

攝河之國境 今市村土居村の間あり是迄ハ攝河東成郡

○土居 今市村の上り 猿嶋 土居守口の回敵三つ島といふ

守口驛 土居村の上り 浪華より京師より上る陸路の官道第一の驛

なり高麗橋より此地に至る行程二里 歴よりり片町野町野江内代

是と本街道より 是より岸とまゝ南へ 是程は傳舎軒とまゝ飯盛の女昼の支度と

とめ夜の泊と引向屋場より人馬の掛引あげ馬夫雲助の

声高し罵るまど驛路の風として備は地方繁昌と

儲亦長菜菔の糟漬ハ當所の名物として世は守に醃し号は

風味殊更は美なり因云此長菜菔ハ生る時ハ宮前菜菔と号し

往昔ハ攝河天満天神の宮前まで田圃ありし時作て物と

みり宮前の号あり然る小治元聖多事より此の漸は此のけ

今ハ宮前ハつちも更なり宮後も數十町人家とあり此大根も昔時ハ

長柄の辺より作るより然れども尚旧名を用ひ宮前菜菔と稱す

今有と此守に求めく糟藏に製し守に漬とる

○南十番 守口の上より陸路の街道の南十番村の傍と

下嶋渡口 南十番村の上より河州茨田郡下島村より摂列西成郡过堂村へ  
淀川と船より後ほど过堂の傍とも云長さ百八十五間と云

○下嶋 或は十一番とも号し今市より 是まで水上九十九丁許なり

三社権現祠 下嶋と八番との堀の傍に在り 此辺の生土神と云

一津屋渡口 八番村の岸にあり摂列島下郡一ツ屋村より河州茨田郡八番村へ  
淀川と船より後ほど渡の長さ三百三十間と云

○七番 右渡場の上より陸路の京街道なり

白山権現祠 六番村に在り相殿に春日明神と祭る當村ありび三番四番ホの  
生土神なり例祭九月廿日

○五番 七番村の上より街道の順路へ 四番三番の街道の外に在り

津嶋部神社 延喜式に出金田村に在り嘉祥三年十一月從五位下と授く  
當村の街道の外より一番二番兩村より通路あり

○一番 二番村の上より世に佐太といふ此辺村一番より十番までの村名あり一説に大坂  
金城要害の軍勢隊伍と立る名ありと云下島より水上九三十五丁許

佐太天満宮 一番村に在り此地の 本社祭神菅大臣 御神体木像長二尺許  
生土神なり 御自作ト云

大自在天神 二品親王良尚卿筆なり 例祭六月十五日九月廿日日本社額佐多天満  
好文天神祠 本社に傍に在り

白太夫祠 好文祠の傍に在り 指荷愛宕と名あり 手水鉢井筒等の流を流し門太郎寺あり

勅梅 社前に在り 後水尾帝より二枝の梅と賜ふより當社の神木に接木する  
又御製の和歌と賜ふより 後水尾院御製

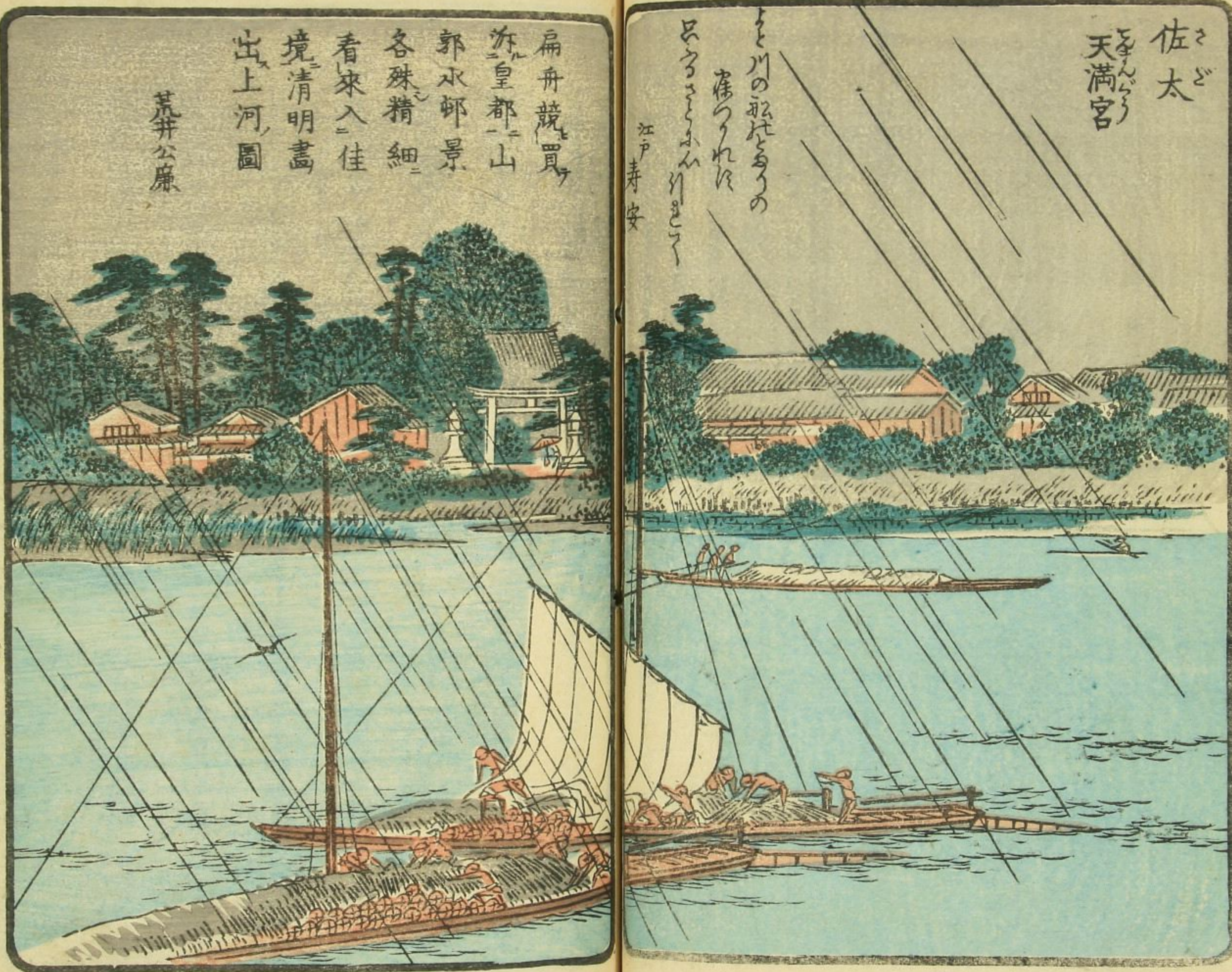
家の風世々々傳く神垣やとてはとけぬ梅も白く雪

佐太  
天満宮

と川の船はさうの  
岸のうれは  
只うささふん  
江戸 寿安

扁舟競買  
游皇都山  
郭水邨景  
各殊精細  
看來入佳  
境清明畫  
出上河圖

荒井公廉



上河圖

天満宮

竹内御門主良尚親王御副書曰

河列佐太宮ハ菅神の廟ありあれども近代社あ終たて

糸真の儀式も継りて永井信列右守尚政朝臣再興せし

より壯麗目成奪ひ見らる者ハそと聴とのハのむむ其頃

太上天皇百和香ハ梅の栴枝とて尚政朝臣ハ給りて神の

庭ハげざり瑞籬のハ物とてこれハ依り右の沖製と尚政

朝臣ハ給り給ふ即納之内陣の寶物とすハ何の業もこれハ

かゝらんされハ神の徳ハよきとすハこれハ給りてあ

事とていざいざとていざいざとていざいざとていざいざとて

慶安元年大呂念五

北野寺勢二品親王良尚書之

抑當社の勸請ハ年歴久遠とて其盤纏さざりて漸永徳年

中の社記と存ハ厥后荒蕪とて社頭ハ神さび瑞籬もさざり

るハハ慶安元年當境守兵城刈淀城主永井信濃守尚政侯

菅神と尊崇とて再び社檀と新ハ営み其より神威のちさ



社頭玲瓏しやとうれいこう其頃そのころ太上天皇たいてんてん後水尾ごみづお名香なか二枝ふたえだの梅うめと副たがひ

御寄附ごよきつけある時とき卯月うづきの末すえつてさうさうふ社しや前の梅うめ二木ふたきの枝えだと

接つぎが勅みことめりのあひれれや神徳かみとくのさきさきや奇異きいなる哉や二枝ふたえだともとも接つぎ

然ぜんと常とこん時ときるるぬぬ気き味あじ実まことと結むすびびりり大君おほきみの御ご恵めぐみは御ご初はつ末すえの御ご

威い徳とくとして神かみも梅うめもああらら有ありりやと四方よもの人ひとくくれれと拜まゐりりて感かん涙なみだ騰たふ

か路みちに社頭しやとう群ぐんとああららりり原はら来きた此地このちに都みやこ往ゆ返かへの官道くわんどうるるればれば旅りゆう客かく常とこに

流ながれれて上下じやうげの船ふね昼ひる夜よととりり往ゆああひひるる

船中ふねちゆうより鳥居とりいの整ととのくくりりと見みるるより遥とほ拜まゐりりててははららるるもも多たりり死し

守口しゅくちより此所このところまでまで傍路なはぢ行程いっせう一里いちりなり

菅相寺かんさうじ 佐太宮さたのみやの後のちよりより天沼宮あまぬまのみや奥院おくいんとと本尊ほんぞん十面じゅうめん觀世音くわんせいおん 行基ぎやうき作つく 葺師ふきし佛ぶつ 運慶うんけいの作のつく

秋葉祠あきばのほ 本堂ほんどうの傍そばにに連歌所れんかじよ 同上どうじやう 永井尚庸ながいしやうおん 庶民しやくみんの碑いし 寺前てらまへににあり

紫雲山しゆんざん來迎寺らいおんじ 右同所みぎどうじよに隣かたはらるる大念おほんげん 本尊ほんぞん天華てんか阿弥陀佛あみだぶつ 股檀こだんの左座像さざざう阿弥陀佛あみだぶつ 右みぎのの開山かいざん誠阿上人まことあの上じんの像ざう舊ふる儀ぎ

村上帝むらみかみのの觀音堂くわんおんどう 十二面尊じふにめんそんとと鎮守祠ちんしゆうじ 八幡大神やっぺんおほかみ 星江相摸大明神ほしやうさうまおほみかみ

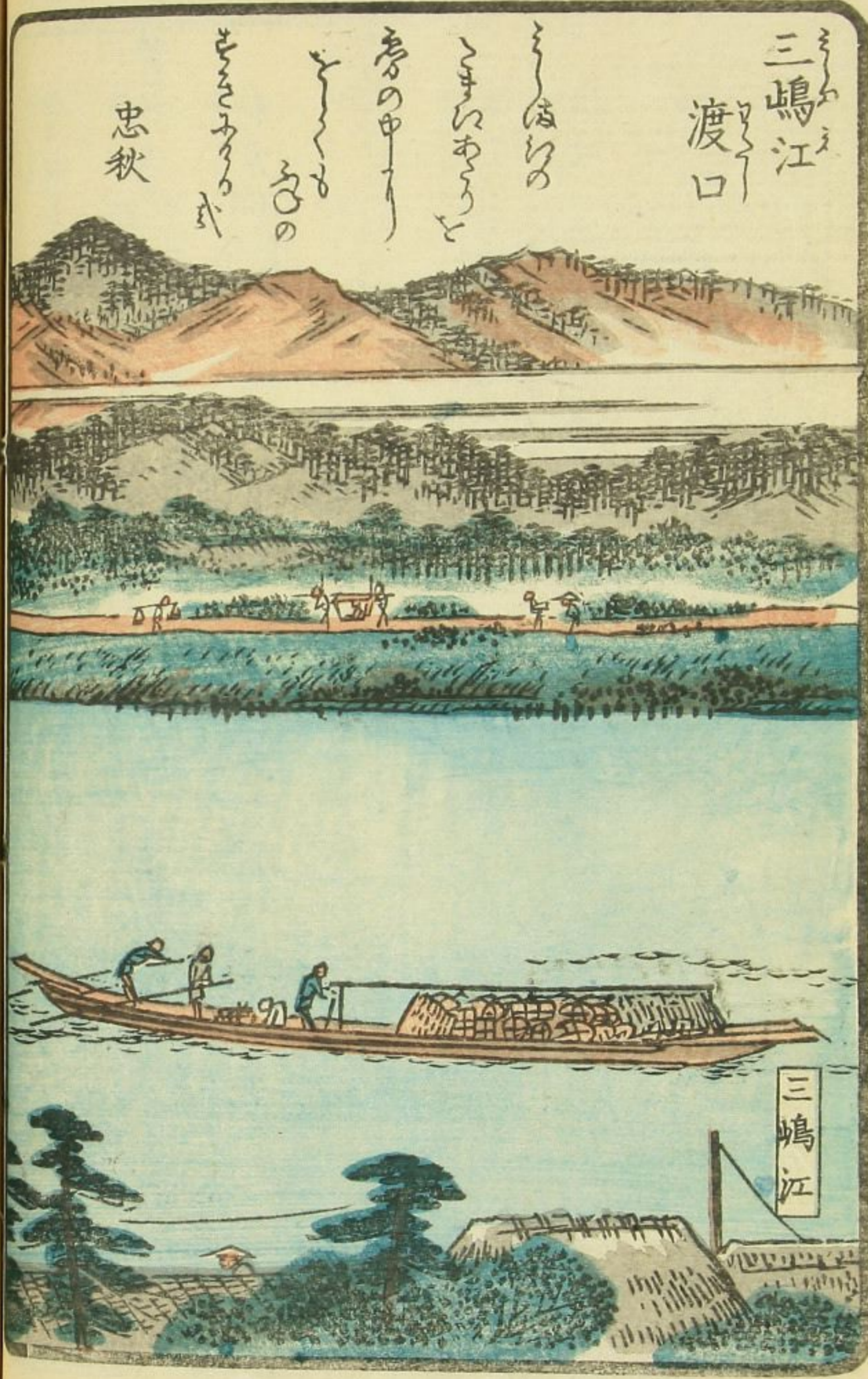
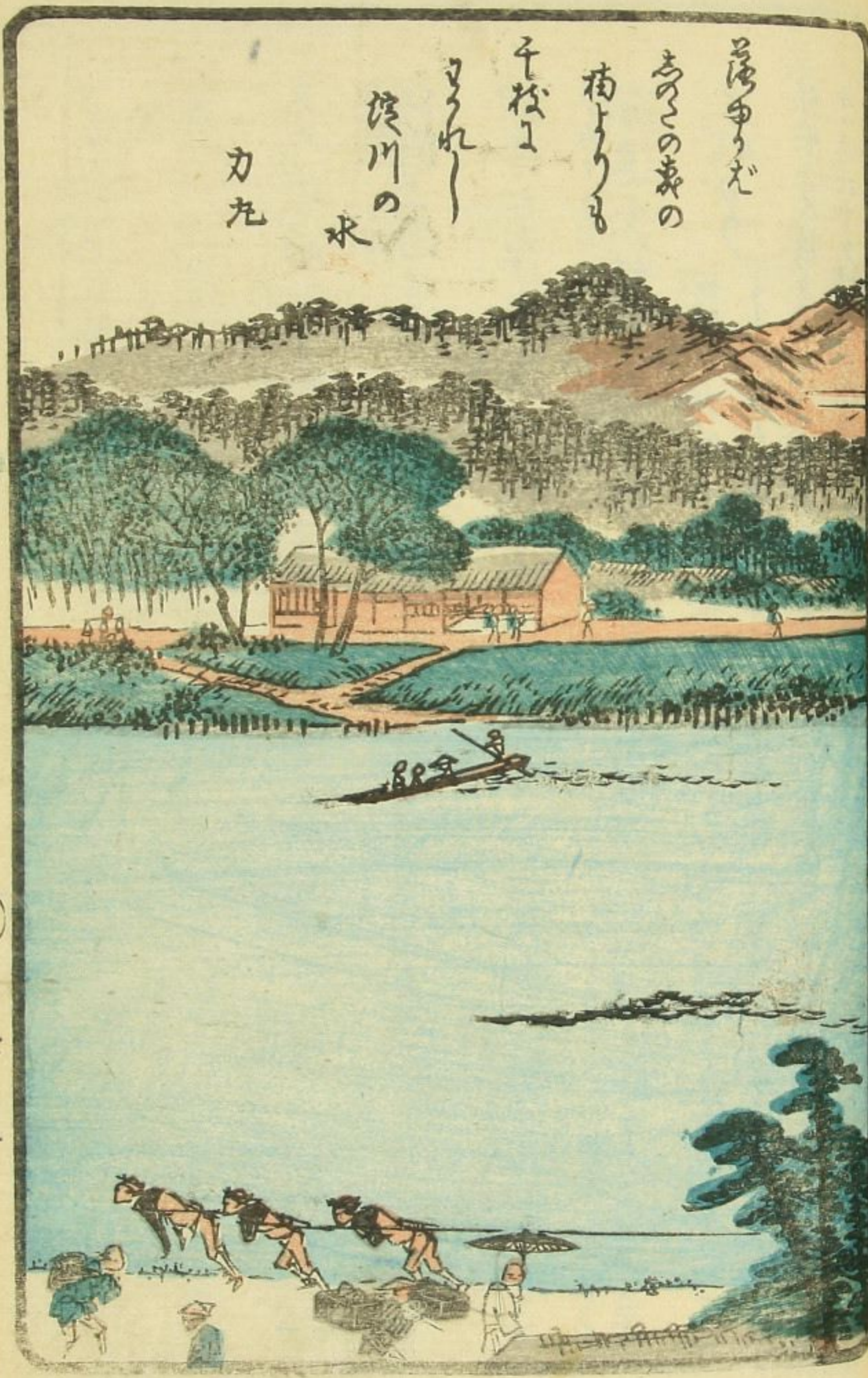
夫當山つまとうざん本尊ほんぞんの來由らいゆと傳聞でんぶんは攝州せつしゆう深江里ふかえのさとに法明上人ほふめいじやうじんとと聖ひかりあり

山別雄德山やまべつゆうとくざん八幡宮やっぺんのみやに詣まゐりりて融通ゆうつう念佛宗ねんぶつしゆう弘通くわんつうと祈いのるるももひひるるは康かう

永元年えいげんねん六月むつき廿三日にじふにち夜よ石清水いしづみ別當べつたう善法寺ぜんぽうじに神勅かみめりありりて曰いひ我われ此山このやまに善跡ぜんせき

三嶋江  
渡口

忠秋  
あつこの森の  
木より  
千松  
カ丸



三嶋江  
十二

して和光の塵の海にうつりていづも時機のまご至らざれば空しく五百餘歳と  
 過せり大安寺行教法師傳了天華の佛像今勅封して寶庫ふ  
 あり當時正の時機にあり早く勅封と解く故より深江の法明  
 法師を授くべしと宣告せられたるれば別當此よりと奏聞し  
 同年七月十日寶庫のとき法明上人は授与し其より此本尊と  
 融通念佛宗の本尊として海内と弘通し其の今の本尊  
 これなり  
 抄列平野郷中大念佛寺の本尊も石清水八幡宮より法明上人に授けし  
 法明上人授けし其の是非と云ふは又和泉国泉南郡も天華の佛像なり  
 其の六十ヶ村月々巡番にあり毎月法會と勤むなり

仁和寺渡口

一番村の上より抄列仁和寺村より抄列島下郡島飼の下村よりなり

仁和寺

右渡口の村より寺あり仁和寺村と云ふ

點野

仁和寺村の上より一とせ渡川より大洪水も當村の堤破壊し

太間

點野村の上より日本紀に見ゆる杉子絶間の旧趾あり又夫木集り出たり

木屋

太間村の上より

三嶋江渡口

松が鼻の上より抄列島上郡三嶋江村より此所へ渡川と云ふ

出口

松が鼻の上より杉原一坊あり村の堤より遙く内より村中ニ光善寺と云ふ

蹉陀山天満宮

一向宗の寺あり松原堂と号し東六條に属す  
 出口の隣村中掘り申振出口兩村の生土神あり  
 例は九月九日

本社祭神菅大臣 神像長四尺許 行者堂 稻荷祠 神樂所 共ニ社頭ニ

観音堂 鳥居の傍にあり 聖觀音と安の聖徳太子所作并ニ弥勒佛不動尊を

安のりふ定後上人の作り 社傍龍光寺観音堂の傍にあり 社傳云昌泰四年菅公筑紫へ結遷しより

時御息女 菅公須戸神記 御父の別れと愁ひまいて此所をあり 蹠跣

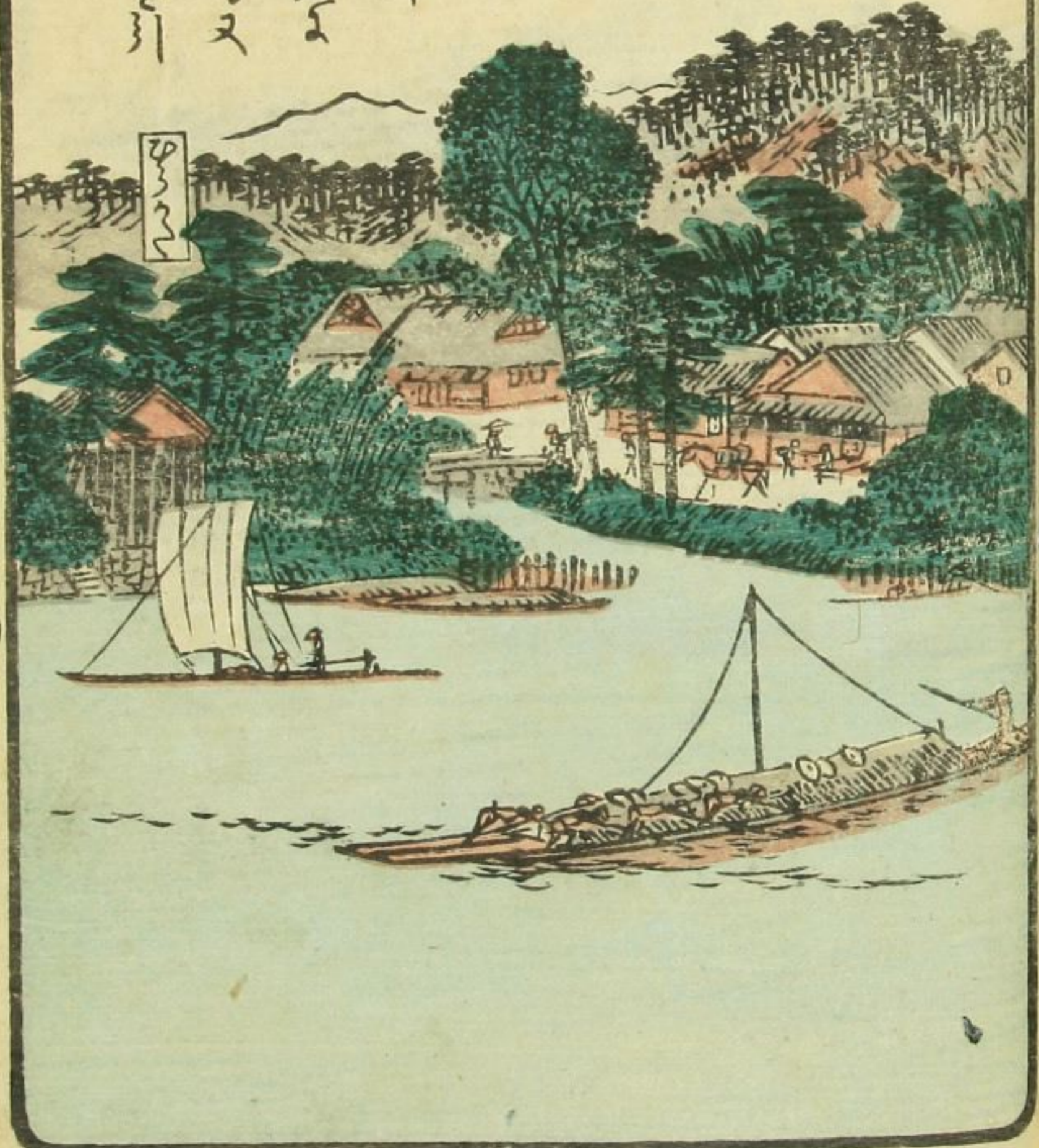
後ニ御自作の神像と此ニ祭り 崇教一奉る所あり 蹠跣山と号し 文選より蹠跣と訓じ 唐詩の注ニ失足

意賀美神社 伊加賀村より 延喜式ニ出 蹠跣の足どり又ハク一蹠と訓じ

伊加賀 出口村の 伊加賀川 伊加賀橋 ともに旧村にあり

伊加賀

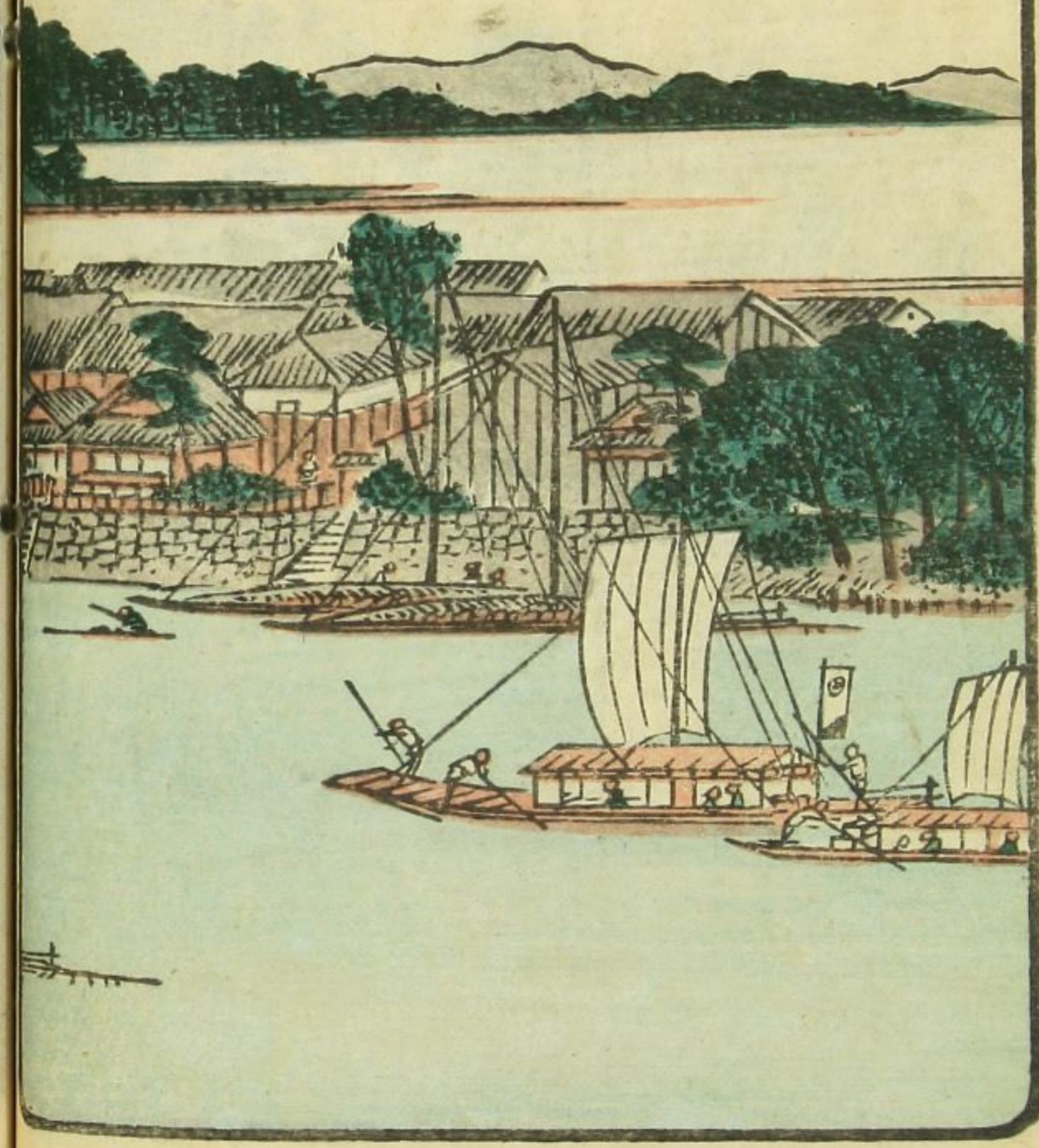
東堤の村より 船の水より上りて 東方まで下りて 引上り 舟より十四五丁さし 舟より西堤へ上りて 舟より下りて 三丁さし 舟より南堤川にあり 舟より舟のまでき



其二  
 牧方駅泥町

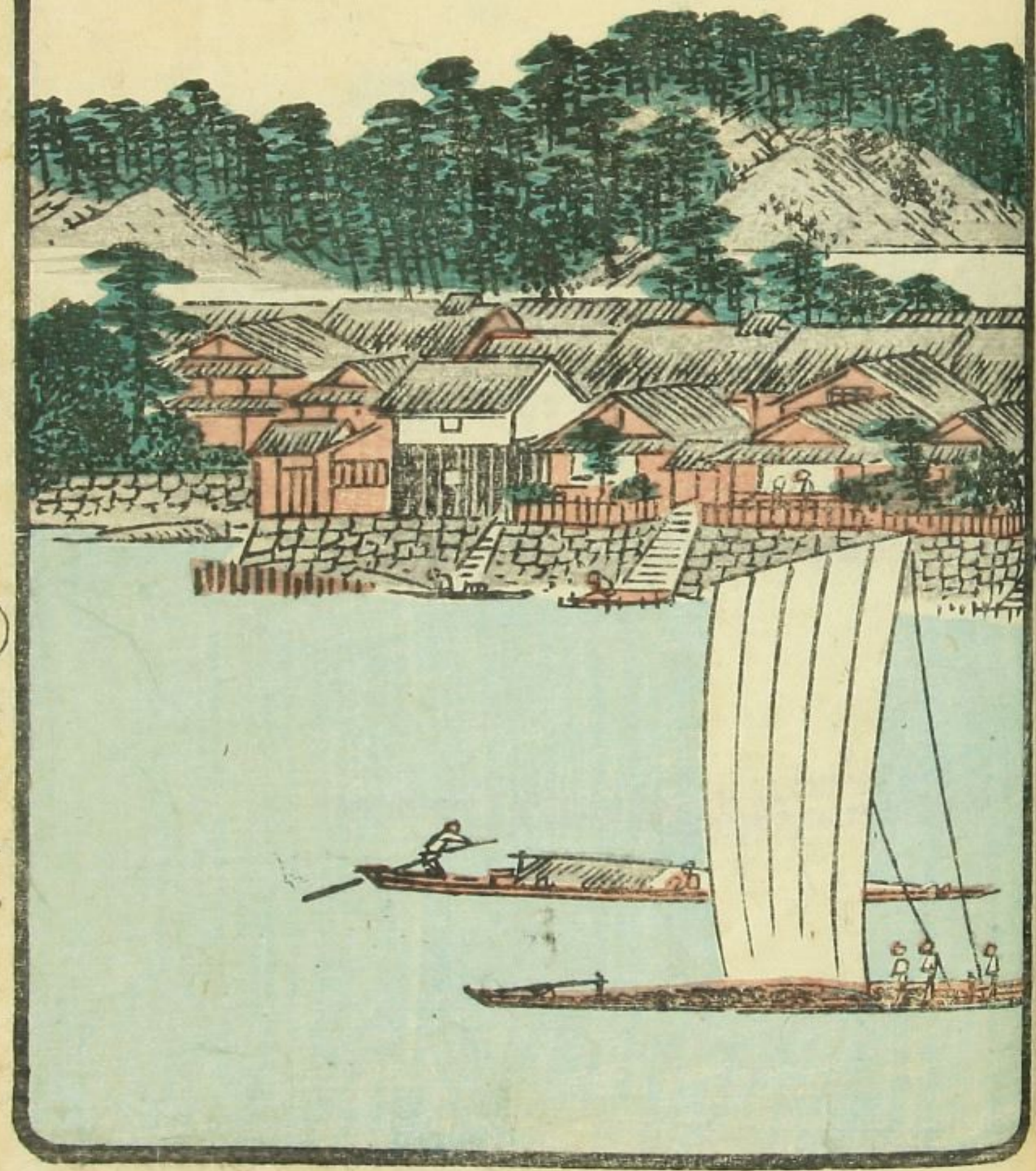
土人賣食  
 盪瓜皮朝  
 罵募錢何  
 所欺捕惡  
 不嫌如嚼  
 蠟恰供支  
 膝倦眠時

嶋掠隱



そらし知れ  
 人の尻る  
 口車つれ  
 酒百ふ  
 のり合の舟

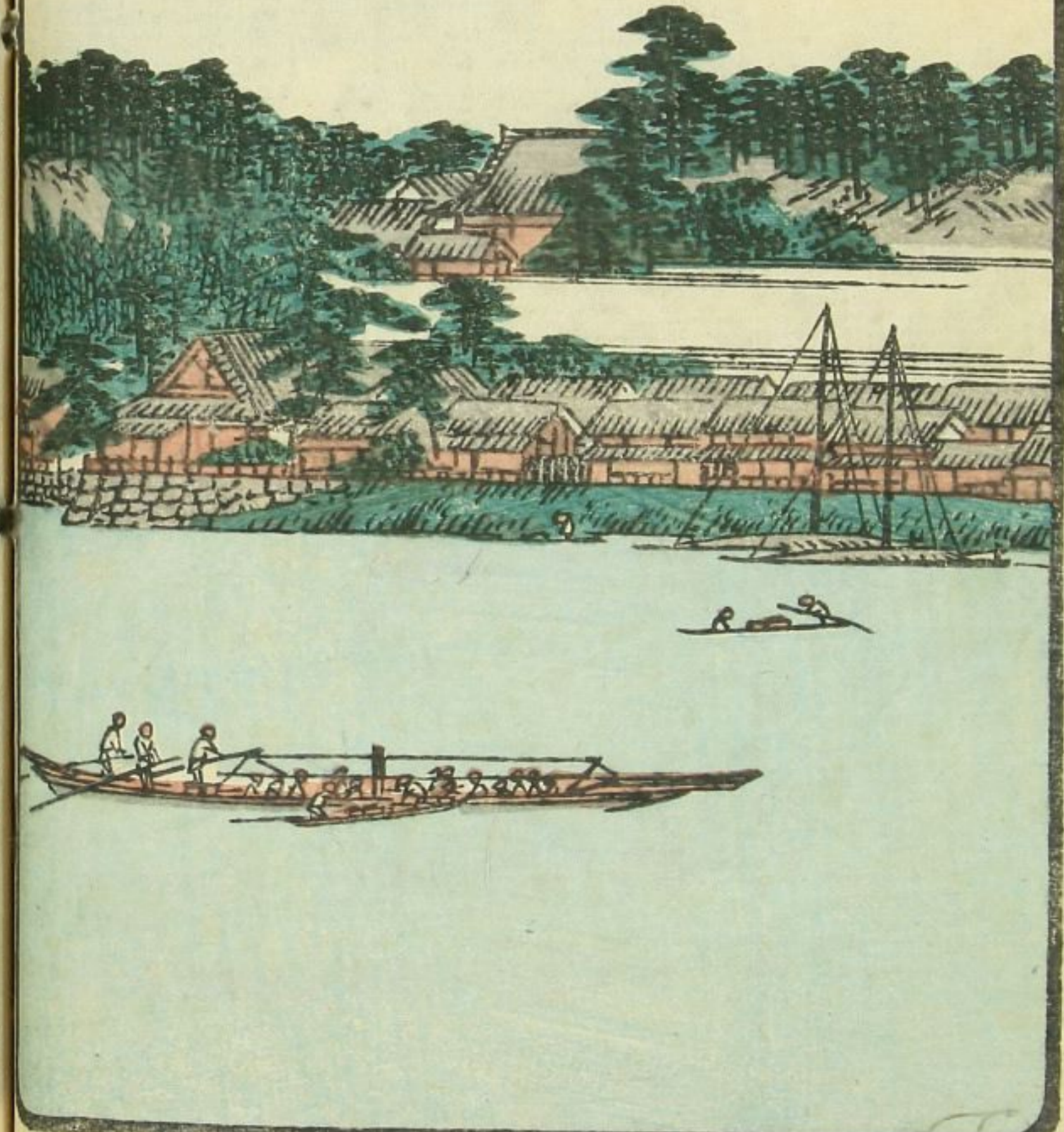
江戸  
 平鉄東作



上  
 一  
 九五

其三

まゆめやうり  
きつねの辺より物さ  
までの川内してまの  
うりな  
きつねあつてまの  
酒飯ととむと  
俗よくうんうねと  
りふ川條の一寺  
う



ゆきく船と

まのの

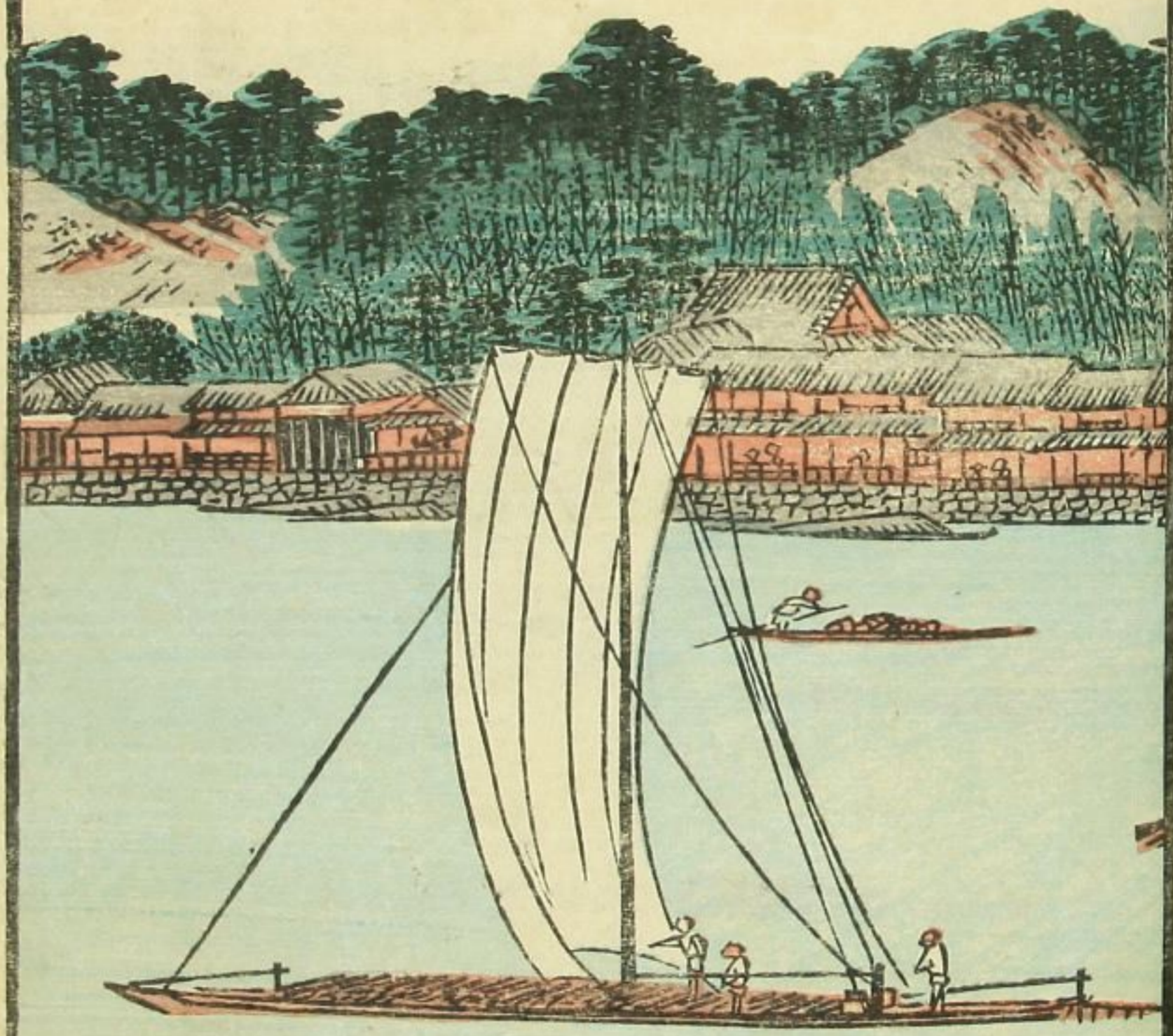
船

ゆきく船と

まのの

鬼持寺

力丸



上  
一  
六

其四

牧方渡口

西岸大塚へ渡は

長流あり

舟よりくまの

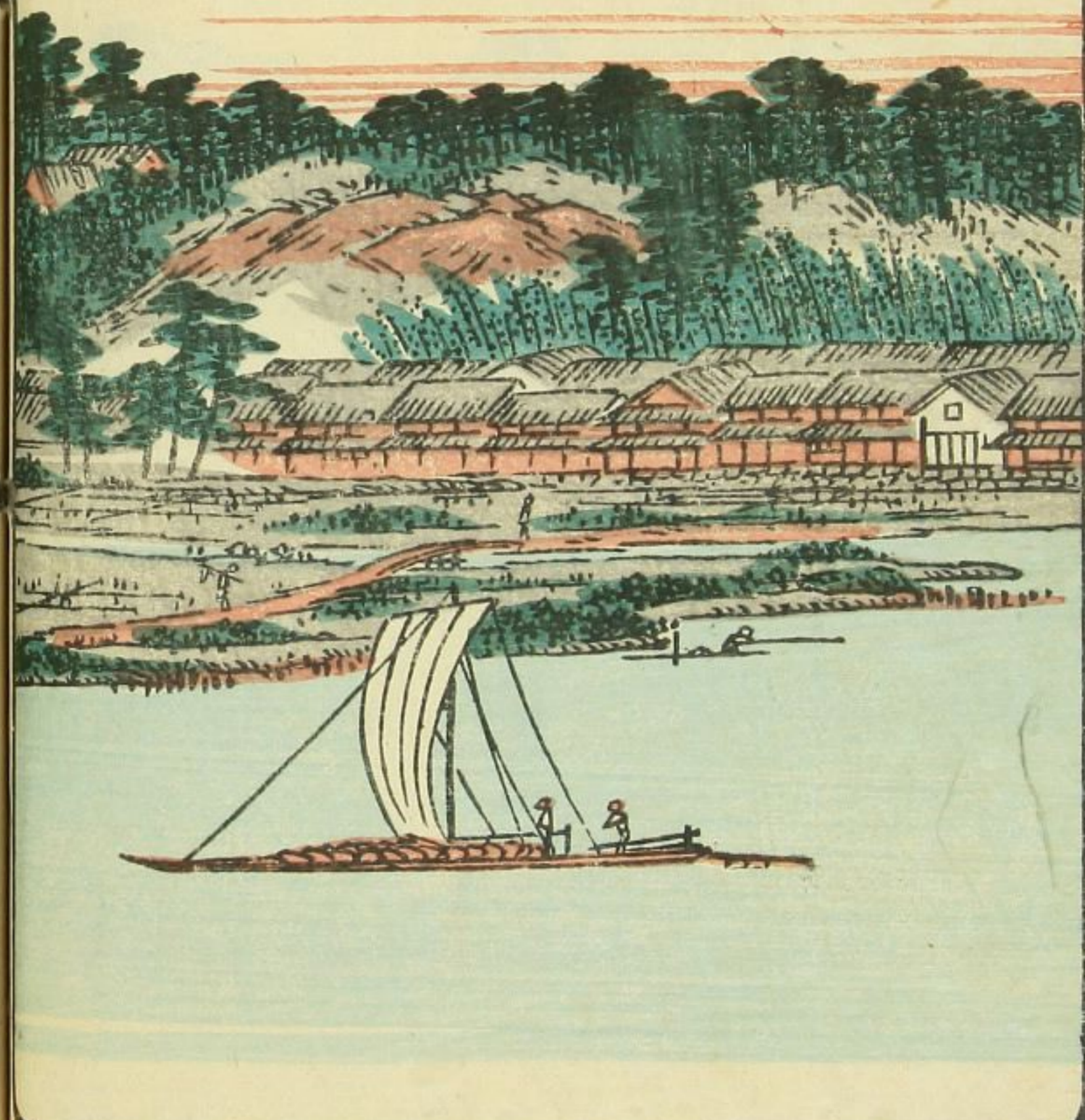
秋毎らん

舟りの流も

あわさ

のり合

江  
有大甚



百里河堤

西又東蓬

窓夢破蘆

菽風暮々

朝客鬻羹

餅不似滄

浪鼓柁翁

田勢



上  
一  
九  
七

技方驛

伊加斐村より守口の取より當取まき陸路行程二里  
松が鼻より此取まで水上九三十町とあり

此驛ハ京師浪花の通路の西国の諸侯方関東参勤の官道なるが

ゆゑに結舎本陳茶店貨食家多く將飯盛の女もとりり

昼夜とゆる賑々驛中泥町三矢岡新町等の小者あり

町続き頗る長く船の整えあり又兩六條の舟場も有り

東ハ願生坊といひ西と津会寺といひ諸人常々同路なり

貨食船の當所の名ありて船とありて昼とありて夜とあり

船に飯酒汁餅などを貯へ上り下りの通船と目づけて鑑やうの

物と其船に打ちけ荒らうふ引のけ眠りあり船客と起

し声かきびと酒食と高み松よれと喰ふん船

と号に往來の船より風波の雅あるゆゑ此舟と漕つれ

出く夫と助ら役ありと向ゆ

喰入敷とらうんくも起されてぬるも其の渡の川舟 作事不

酒うりよ夏やぶくれくあぢらぬ 梅圃

ゆらうよ著るらうらうらうら 祐徳

ゆらうこの礎もをりよりゆめ 燈升



御茶屋

投方の中あり 天正の頃豊太閤此地に徳儀を建てるなり

牛頭天王祠

同此地にあり 祠あり 例祭六月廿日 九月九日

長松山萬年寺

右天王の社頭あり 本尊十面觀世音 春日作座像 長八寸

薬師堂

本尊瑠璃光佛 弘法大師作 行者堂 役小角と安曇

此地に往昔惟喬親王清院

まゝに時田獵し給ひ鷹と放ち

まゝに結されし處に大樹の根をまゝに巢と營てて雛を生じ

親王欽怡あつし時々行啓しあひ所將し給ふ是より長松山と

号し其鷹終に死しこれに此の地を理葬し給ふこれより鷹

塚の号くともり又藏が谷と稱する 履中天皇の官庫の古

蹟ありと言傳り尚本尊大悲尊像の未由薬師佛牛頭天王の

縁起ありといふも事無きれが畧之

投方渡口

此地より投方島上郡大塚村に渡り毎に三つあり

監船所

投方の駅にあり淀川の船を監視 京師角倉氏累世これと司す

天川

投方の取中泥町に矣岡新町をまゝに人家の跡あり交野郡に属し水源 和別南田原星の森より出る投方入口より足上九十二町

天川を流りてり成りて交野のこの五月雨の頃 為家

この秋のひと秋の繁りてふかこのよ藤の香もや鳴院 家隆

○禁野 天の川の岸あり往昔延暦年中 帝に遊獵する國民私禽獸を

車塚 禁野村あり惟喬親王御車と云

和田寺 俗に禁野の華師といふ婦人産を祈りか靈應あり

本尊藥師佛 聖德太子御作長三尺寸脇土不動尊像あり

四天王寺は在り弘法大師に近し其後貞觀年中

文德天皇第一の皇子惟喬親王 御見し 遊獵の時三足の建

波瀲院に飛入り於れ即れを塚に築き小祠を建させ給ふ

今の鎮守されり其後康永の以廢盡しより楠黨和田新

源秀再真の因茲和田寺と改む什室の天降る後西界曼荼羅

あり寺前御禰の櫻あり 樹の樹をては枯朽し

交野原 禁野中宮片鉾ホ徳名あり 帝御禰の所なり

あれは交野のものなりわれわれやうの人々をわが 彦宗

まゝやん交野のもの様がと記の者ちの暎 後成

○磯嶋 禁野村の上あり二村の格別格上郡に属し西の岩格別ニ

○渚 陸路街道の順路あり

波瀲院古蹟 今寺と云ふは十一面觀世音を安んず真言宗の傳れ

守り堂堂の五井橋 碓止松の古本より又傍に碑あり寛文元年十一月山列渡  
城主永井侯の舎弟同伊賀守家隼杉井吉通建之銘に向陽林子撰り

土佐書記 貫之土佐の任とてこのわたり道のうり  
あまのこの院の梅の花をこころしくみゆるは

君急く上流を宿の梅をむくの香りを移白ひ給

新秋 かのゆきゆく流の橋ゆきまはれてこころゆくはくはるす  
流定書

後集 花のまのゆきくびるもがわつる免や渚の宿のまらうとん  
俊成

渚杜 渚の院の林と  
渚岡 渚の院のまらうとん

續古 ひくゆきゆく入流とくづくの渚の杜のまらうとん  
内大臣

新秋 うらみか渚の立の松とくづくの渚のまらうとん  
信明朝臣

坂川 坂村のまらうとん 水邊橋谷より出ゆとくづく 徳谷川より未坂村まで

坂 坂の遊のりや天の川より此所まで水上凡廿三丁余

交野神社 坂村のりや遊邑ハケ村の生土神なり  
例年九月六日此地浪華の良

本社祭神 牛頭天王 土人河内国  
本社 社の左傍にあり 本郷帝釈天  
一之宮と称す  
并三天王 地蔵もここにあり

一宮神祠碑 寛文丁巳之春菅原朝臣長親篆額  
前祠祝岡田皐撰 伏見岡田宗興建  
江戸海保皐鶴書 銘文畧之

下嶋 坂村の上より  
下嶋渡口 下島より勢殿橋より川と接す

上嶋 下島村の上より

船橋川 上流村の端より水邊荒坂の嶺の南より出  
招提村と歴る舟橋村  
より坂川へ入坂川より此所まで水上凡十八丁廿六間とす

楠葉渡口

波の泡

くまきま

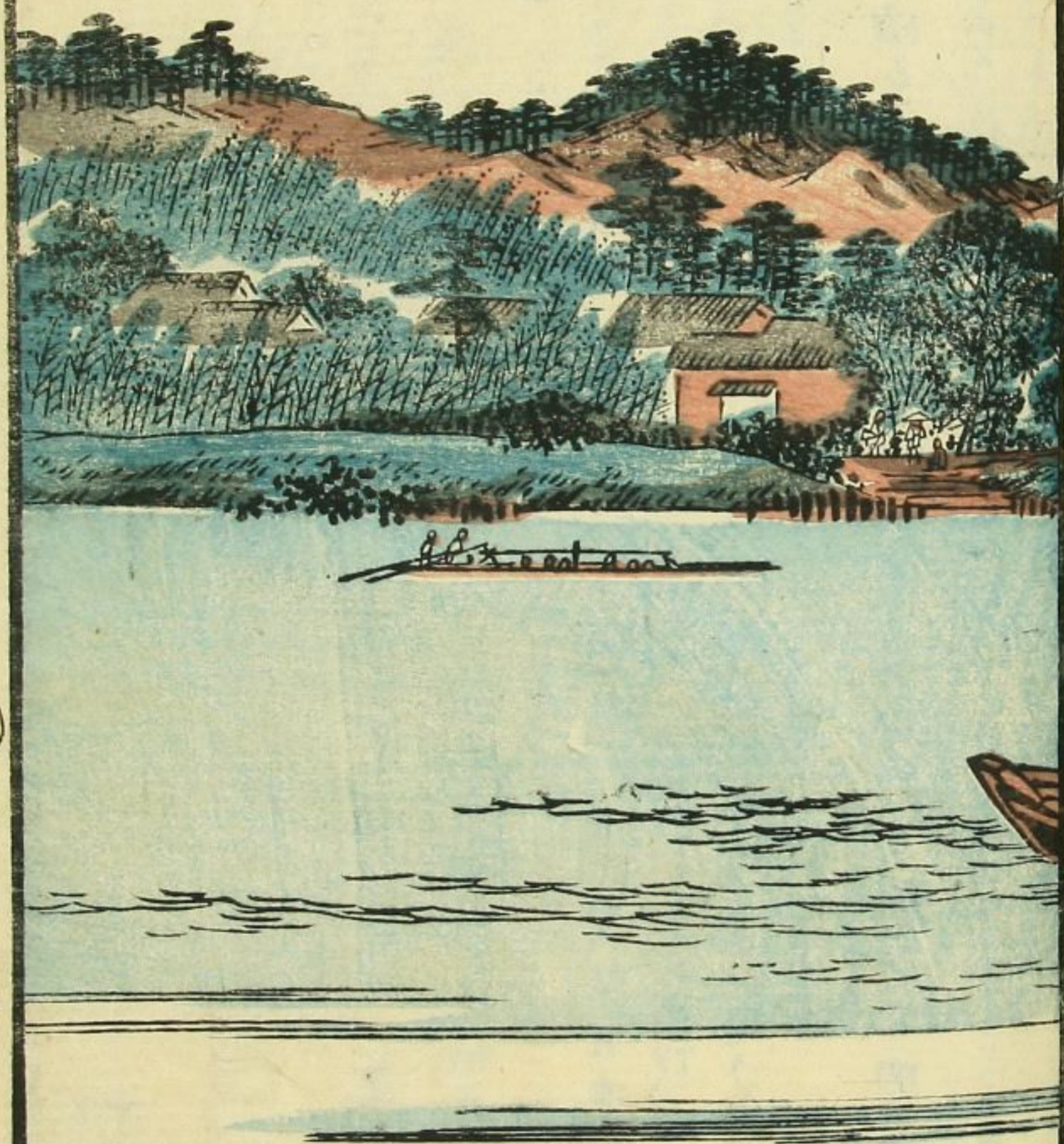
清く

鳴千鳥

宇鹿



はつらううすあめ  
水まよふて橋かど  
打ち廻の上まで  
一里余り道のわり  
又舟のついで  
波のあけの上まで  
三十余りのかり  
又早天つぎあつて  
水ぬこことこ西の  
岸とあつて  
ゆきまらうへ



上  
下  
三十二

上  
下  
三十二

往昔此川水勢つゞくとして橋を架けて流るりしより舟橋と

つゞく往來せし舟船橋川といふとど  
今街及より内へ入る  
舟橋村といふあり

此水や此水よ波あはれ天の川交野辺ゆけは流る舟橋 光俊

○樋之上 右川の傍にあり高村の東に舟橋村あり二の宮と稱する神祠あり

○楠葉 樋の上の上より扱方より此水まき 際路行程二里 日本紀云  
元明天皇四年正月始置樟葉驛 去れば往古此所取ありし

ありし高村中より男山八幡宮へ多治のたありしつゞくは此辺りと樟葉  
野といふ又樟葉宮といふ行宮ありしより日本紀に見へり

○楠葉渡口 月西より杉洲島上郡 高濱に渡り故より渡のこゝより云  
續古より 早よりいふはとる人の後かげつる樟葉の文の秋の表の月 関白左大臣

彌勒寺古趾 楠葉村にあり一名足立寺といふ  
山列八幡の古祀に見へり

釋迦堂 同村にあり一名久修園院と号し本寺 釈迦佛立像長六尺  
赤梅檀といふ

藤原繼瀧別荘趾 同村にあり字と名原と号し傳云 桓武天皇交野は行幸の所  
此別荘と行宮といふ

金川 同村の北の流あり舟橋川より此西より水上凡三十二丁余

金橋 右金川よりいふは此郷の号し  
北詰より山列 綴喜郡あり

廣瀬渡口 金橋の上より扱方清上郡 廣瀬にまでいふは舟と名あり  
凡九十間といふ俗に下の流といふ別此上より又波はりぬ

橋本驛 金橋の上より大坂街道の駅として人家の地十二丁あり茶店 後舎  
多くいふは舟と名あり八幡と名傳の人のありしより

此地に往古山崎より架け大橋あつて其橋の詰より舟と名あり



つる山

峯やきり

月影

つるれ海

ふしの川

系樹

新舟や  
つるれ  
ひのの男山

其角

やま

橋本

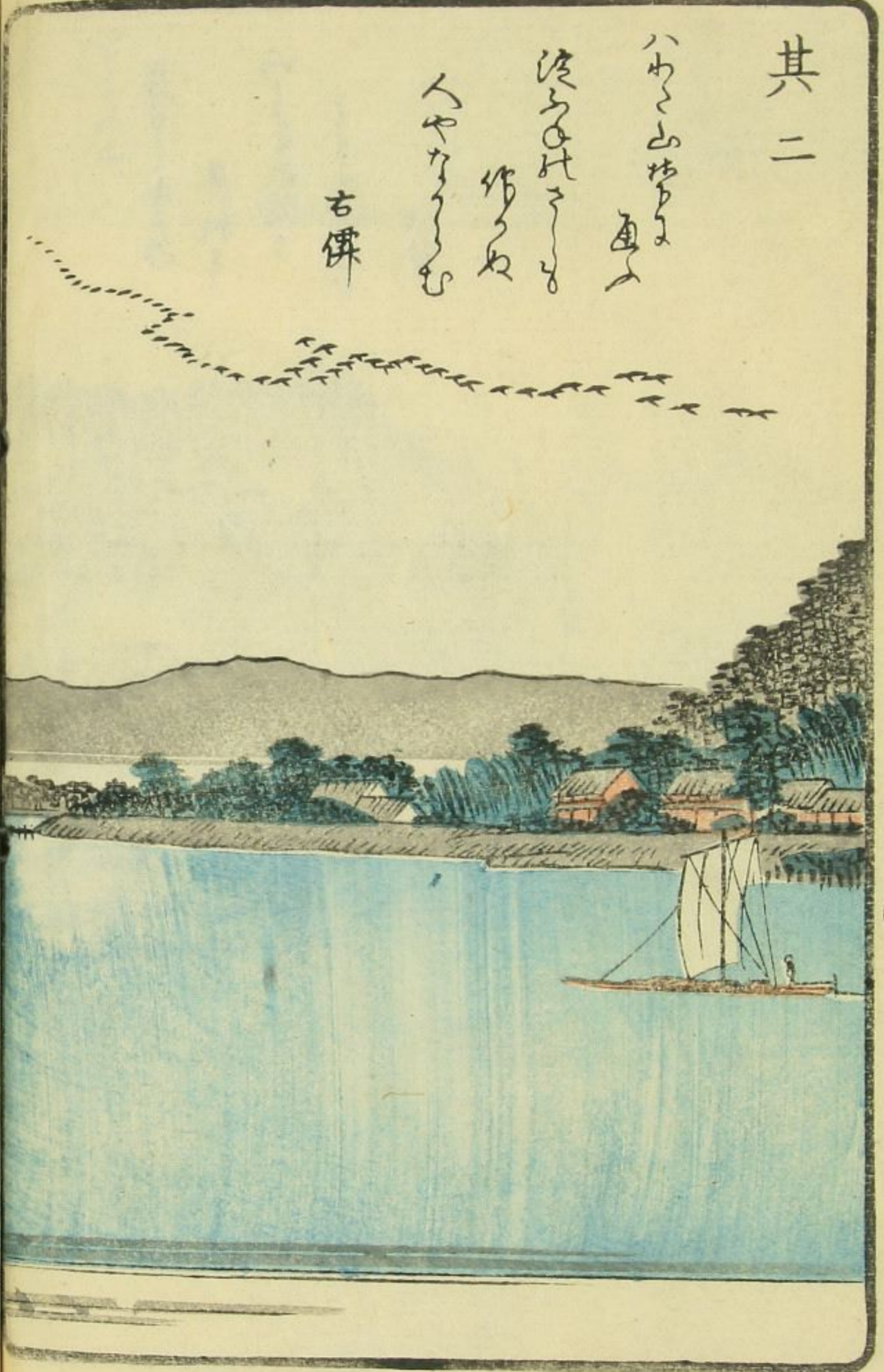


上田

其二

八州の山は  
波もひたす  
作らぬ  
人やかなる

古俳



瓦むけ

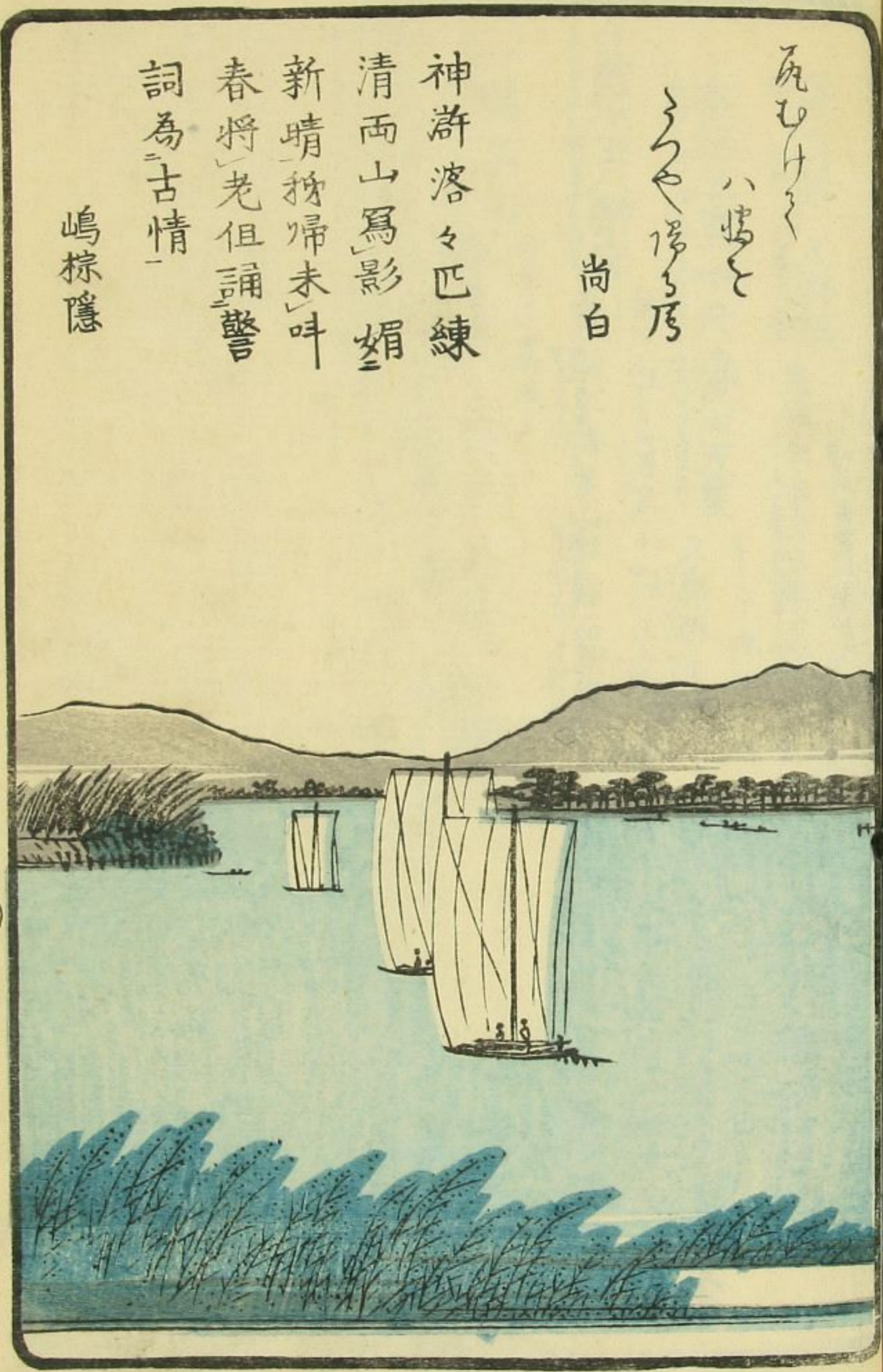
八景と

くらくら

尚白

神遊落々匹練  
清両山寫影媚  
新晴物歸未叫  
春將老但誦警  
詞為古情

嶋棕隱



嶋棕隱

号くとも今中之町とては橋の渡はる山崎橋延喜式あり  
文徳實録は出たり今舟とては

橋本渡口

右坂より河原川と山崎とて又一説は山崎の橋の渡はる

雄徳山泰詣道

駒中の右の方石壇鳥居あり山路十町中程は狩尾の社とて地主の社

掘之上

橋本の町をめぐれり名物の小豆餅と

石清水正八幡宮

山列綴喜郡男山鳩嶺は橋座あり一雄徳山と書け又嶺と香呂峯と

本社三座中央譽田天皇

又應神天皇は孫人王十四代仲哀天皇第四の太子

東之間

玉依姫 鷓鴣草昔不合尊の妃

西之間

神功皇后 應神天皇の御母あり

當山の御鎮座は貞觀二年六月十日筑紫守佐八幡宮御託宣あり

我王城の近は遷坐して風雨と守護一國家と安泰をまゝめん

言ひしより朝廷數悦びせむ此他は神殿と嘗て永宗教あり

八幡の神号は梳篋宮崎駿の松の下は八流の簪降下は赤幡四流白幡四流則其

譽田八幡九とて本社後の傍は若宮三隣は宇礼姫具礼姫

水若宮 娘若宮の傍は宇治の皇子と 上高良社 本社後の傍は

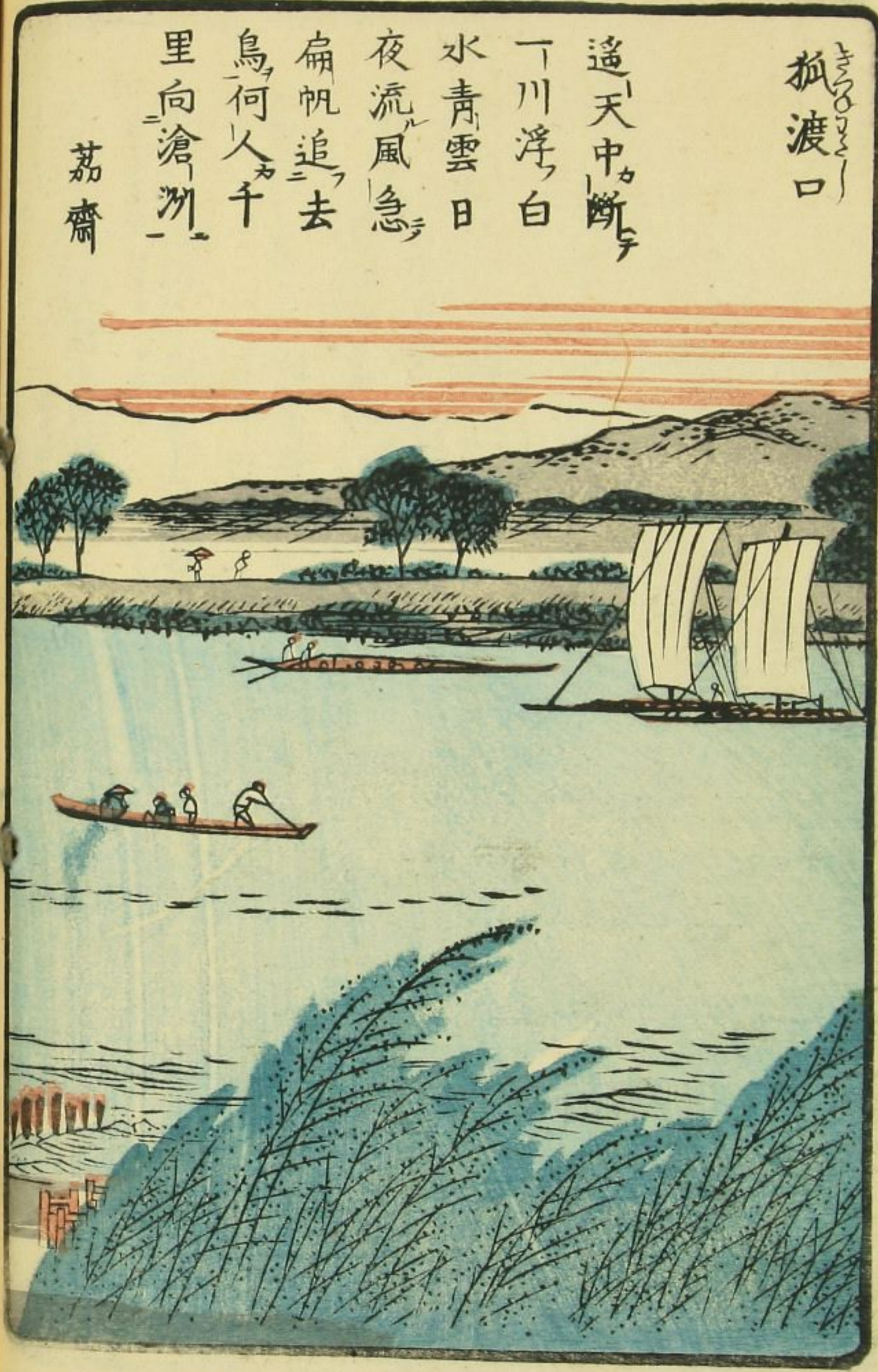
住吉社宝藏影向櫻 橘樹 神殿の傍は東廻廊の外は

大塔 大日ま室の 阿彌陀堂 大塔の傍は元三大師堂 神喜舎 日向



狐渡口

遙天中斷  
一川浮白  
水青雲日  
夜流風急  
扁帆追去  
鳥何人千  
里向滄洲  
荔齋



踊

ま

り

舞



上  
一  
三  
七

廻廊の外東ニあり毘沙門天と安け  
石清水 琴塔の下ニあり傍ニ  
石清水塔現あり

松もあひ又も葎むを石清水に末とてつとまららん 其之

新穀 神垣やうひももあま石清水をせんちとせの末と久しと 為家

細橋 別当社の下ニあり石を布て橋の形とす 観音堂薬師堂  
石清水の傍にあり

瀧本坊 石清水の傍にあり 暎々あまの位唐草あり 愛染堂 三のまの  
同向あり

三鳥居 元三大師堂の傍にあり 石柱三鎧と鑄以正保二年正月徒四位下行信濃牛  
大江姓永井尚政建之とあり

二鳥居 七曲の上ニあり 下高良社 二のまの  
藤大臣連保とあり

太子堂 七曲の上ニあり 瘦神堂 一のまの  
都人正月十五日より十九日まで  
あまの群とあり

本地堂 瘦神堂の隣にあり 藤大臣連保とあり  
一鳥居 瘦神堂の後門外ニあり八幡宮の額に佐理との  
筆あり後世旧換とあり

放生川 八月十六日放生休養ありて 高橋 及橋 安居橋 南のそと  
放生亭よりあり

神宮寺 宿院科手の間ニあり大衆院と号し本寺千手観音神殿に神功皇后  
とあり方丈に愛深明王とあり

放生會 例年八月十五日下午院へ神幸ありて同日還幸して給ふあり

十六日放生川の切へ社湯ありて諸の魚もと放生ありて程こ此

雨日の遠近より詣人群集し宿院の辺より芝居敷下所種々の

物賣ありて尺地もさく市とありて極々神慮のあまらるる

物賣ありて尺地もさく市とありて極々神慮のあまらるる

新嘉 男山秋のうらふやせりらん河原よる川よりの舞 知家

臨時祭例年 三月 申午日あり

新嘉 ちりもせど衣はたれ 竹の太き人のかきくさくさ 定家



○科手 京都の外へして 若宮八幡宮 科手村

瓶渡口 八幡宮御祭向道のも居の傍より此より一湯とゆふ山別七訓郡 丹明寺村と流る渡川のありしより

一説は山崎の橋の 桓武帝即位三年は是と造る中頃より

渡の橋をわけてより此橋造る今舟渡となりて折渡と云 俗に

往古の人衆と南に移り今橋の宿りし是なりと云 保し

早稲田大学図書館

011688994820